

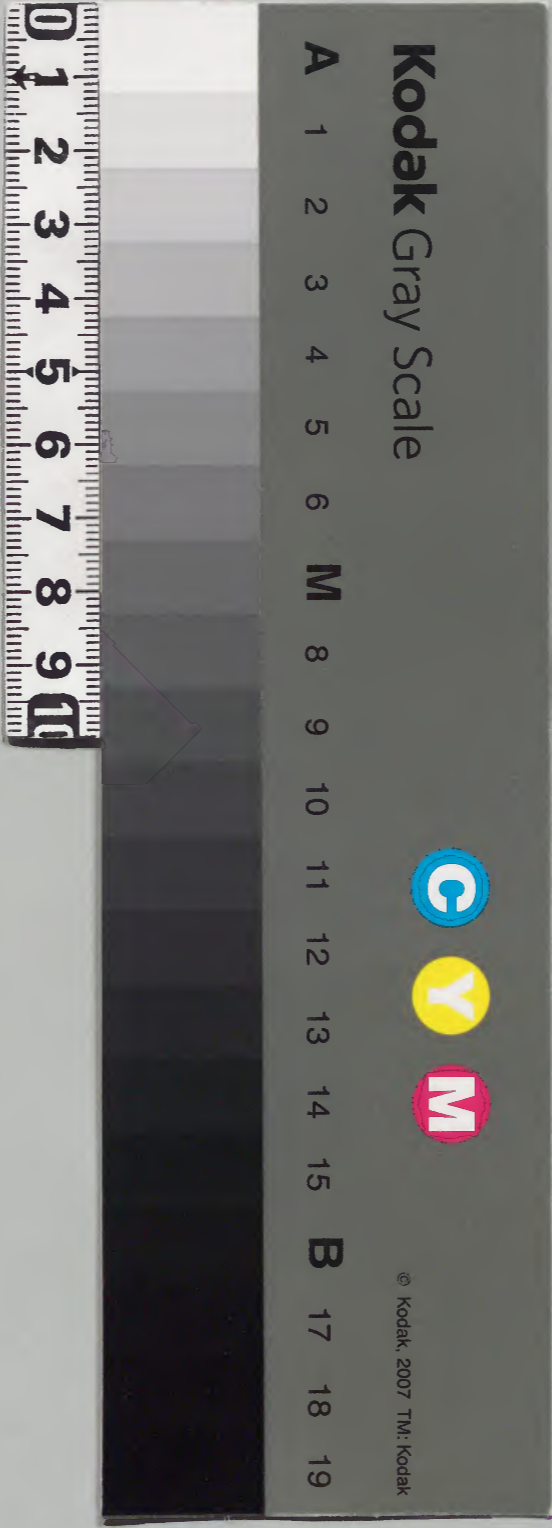
日本書紀傳 三十卷十四

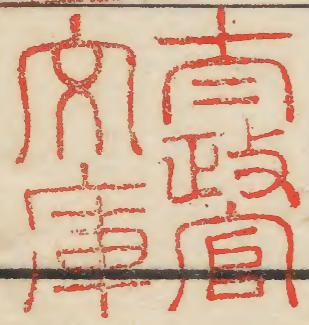
和書
一〇五二二號

百十六

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156	(125)
函號	特 85	1

内閣文庫





昔國相樂郡因田離宮云々同四年正月丁未始置山皆
 國相樂郡因田驛也見元又因田山と云有り三代實
 録山貞觀八年六月十日丙寅以前筑後守從五位下清
 原真人貞負爲採山城國因田山銅使判官一人主典一
 人云々と有は是あり祖因田の地今詳あらずと云う
 各勝迹志山賀茂より東南巽の在る山因田山ゆと云
 り然も有べし今本津と云より東方○神名式の大
 笠置山と係る古の因田ありつゝの東方○神名式の大
 和國漆上郡率川河波神社ハ上五百五十八丁小注るが如く
 其始城上郡狹井坐大神荒魂神社五座鞆の中より移
 奉りて其祭神の説ハ大倭神社注進狀則率川
 神社の別社條ハ三枝御子社一座傳聞狹井神之子事
 代主神神名帳曰大和國漆上郡率川河波神社一座類
 聚國史曰仁壽二年冬十一月辛丑率川河波神社從五

○日本書紀傳三

○六百九十四

位下即當社焉と有り如く事代主神ゆへ渡りて給へ
るあり何と以て三枝御子社と申すか其率川
坐目大神御子神社三座と大三輪神三社鎮座次第小
春日三枝神社と有り神祇令小謂ゆり孟度三枝祭ハ
も其社も就令祭りも名あり其社も御在
坐す中の狹井神を注進狀の大己貴命荒魂大國魂命
と有り其神の對へて云祢あり諸河波神社と申す阿
波ハ皇極天皇三年御紀謠歌三首の其一ハ烏智可抱
能阿婆努能^推始騰余謀^動作^我倭例播祢始^羅柯騰比騰
曾騰余謀須と有り阿婆努を釋し所名也と注し万葉

七四下ハ鏡成吾見之君子阿婆乃野之花橘之珠尔拾
都と所見ちれハ阿波ハ阿婆と濁讀へくハ地名
と思しハ猶神名あり御在ハ坐けり然ハ率
川神社ハ推古天皇御世ハ齋奉ル當社ハ御事
ハ注進狀ハ南家口傳云藤原是公立率川社即當社歟
と有り此ハ平城朝ハ御事ありハ事代主神と此ハ移
奉れり其御世と爲ハ然ハ阿波神と申すハ上
五百七
十三
カ注リガ如ク事代主神の本后と天津羽羽神
と申し當后と溝織姫命と申奉り其天津羽羽神ハ御
名と略りて阿波咩神と申し又略りて阿波神と申奉れ

△其阿波神天石 別神の御々々 事土 佐風王記所見 神名六 菅郡御前 社天乃石立命神社 石吸神社五百 坐決 天子カ雄神 可考 百七 鷹二 横小 三十 八二 由無 一と ハ云 ヲク ヲシ ヲシ ヲシ

るバ此神の始より御在り坐ける社有る後小事代主神を合せ祀りて一座と為る者ある可し然る時、右の歌共の謂ゆる阿婆努ハ其始此神の御在り坐り初なるより出来れり名あるハ故小事代主神。御鎮座より以前小己小其地名ハ有るけり。但此神社の小引合せ云べき事共有て此の得しも盡さざるを己の上五百四十二丁五百五十九丁云々合せ讀て曉り可き者あり大和志小在南都西新屋町と云り又天津羽神ハ出雲より御在り坐て長谷朝倉の御在り坐り思ふ奇説有る。○又葛上郡鴨都波八重上 五百七十五丁云々。○事代主神と御祖神屋楯比賣命と二柱の渡り給ひて諸國ハ在り賀茂

神社の本あり由上四百九十一丁 小己小委一 注一 奉り如一 當郡の殊ハ御由縁の神等御在り坐ある中亦高鴨阿治須岐託彥根命神社四座並名神大月 其御本休りて渡り給ひ葛木坐一言主神社名神大月 次ハ其荒魂御魂 御在り坐て此事代主神御魂 三所共小並御在り坐ハ諸國ハ有る限の賀茂の地の本あり其三神の本所あるが故あり其一言主神社 の御事ハ上五百 八十丁 小注一 奉りて高鴨神社の所由ハ下十 百丁 明一 奉り可考 あり又長柄神社歎 ハ姓氏録大和國 別地 祇祇 小長柄首天乃八重事代主神之後也と有る此氏人の

○日本書紀傳三

○六百九十六

祖神として齋奉るあり可き事五百九十三丁小注わか如

一〇高市郡高市御縣坐鴨事代主命神社大月次天孫新嘗

降臨章第二一書は是時歸順之首渠者大物主神及事

代主神乃合八十萬神於天高市帥以昇天陳其誠款之

至時高皇產靈尊勅大物主神汝若以國神為妻吾猶謂

汝有疏心故今以吾女三穗津姬配汝為妻宜領八十萬

神永為皇孫奉護乃使還降之と所見たり此御事は因

此神迹あり可一其高市と稱同郡天高市神社大

次新と所見たり此神社の地が古の昇天の所あり可

き此其天降り御在り坐ける後御靈と留めり

△此神實八詞事
代主命從御魂并々
提命坐と百其國邊の
以前の御事あり此ハ
國邊以後の御鎮座と
思ふ

△此御社の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和
國邊の御事大和

せ給へり者と所見たり猪高市と云天高市神社の

地は此邊へ係りと思名ふ此は鴨也鴨は名小名

當昔有云け鴨也鴨事代主命神社と續け云を以

知バ鴨事代主命神社都味毘八重事代主神有下

半倭國高市郡高市社亦云甘南備飛鳥社有飛鳥

社と一云誤り飛鳥別一社ありけり亦

坐と亦云誤り事知バ名式小土佐國階多郡

在り坐り今土佐郡高知と云地名有り然り

名攻大和國高市郡波多郷有又今高取城の地と

土佐とあり上五百三十八丁都佐猪天武天皇元年御

○日本書紀傳三十一

○二百九十七

高^市郡大領高市縣主許梅倏忽口閉而不能言也三日之後方著神以言吾者高市杜所居名事代主神又牟狹社所居名生雷神者也乃顯之曰於神日本磐余天皇之陵奉馬及種兵器便亦言吾者立皇御孫命之前後以送奉于不破而還焉今且立官軍中奉護之宜言自西道軍衆將至之宜慎也言訖則醒矣故是以便遣許梅而祭拜御陵因以奉馬及兵器又捧幣而禮祭高市身狹三社之神然後壹伎史韓國自大坂來故時人曰三社神所教之辭適是也又村屋神著祝曰略軍政既訖將軍等舉是三神教言而奏之即勅登進三神之品以祠焉之所見大

此ハ古事記國邊段大國主神の御言ハ亦僕子等百八十神者即八重事代主神為神之御尾前而仕奉者違神者非也と契聞えとせ御在り坐けり御言の徴を顯ハ一奉りて給へりあり右ハ引り大物主神事代主神の天上ハ參向りて御在り坐けり御時ハ其御畏りてを奏聞えりて奉りて給ひけり此高市社ハ然り御事ハ御在り坐けり其甚も奇しく歎めり御事ハハ有けり諸其牟狹社所居名生雷神也申すも其御靈を分り崩已り此ハ御在り坐りてあり古來生雷を伊久豆知と訓奉り事ありとも佐久豆知と訓

上六百五 小謂ゆる別雷神と同義あり可一萬葉十
 六三十一 七重花佐久八重花生跡と有る生字を以て
 佐久の訓有る事を知べし諸上 四十 小注るが如く神
 名式小 遠江國磐田郡豐雷命神社豐雷賣命神社坐雷
 命神社所見たる小 風土記小 豐雷神社云々 所祭別雷
 皇大神也と見え豐玉比咩命神社云々 有る其御祖
 玉依姬命の 御事あり坐雷命神社の御事小 同記小 載
 ずと雖も決く右の別雷神と別處小 記れりあり此御
 事小 上小 及小 考小 右の牟狹神小 必別
 雷神同体。事代主神の 其天皇の行幸の前後と

圍て 護送奉る給へし御事の 著明り けり但
 神出生章第九 一書小 謂ゆる在座上曰 裂雷と有る佐
 久伊迦豆和り 別あり傳十二 卷百二十下 小注るが
 如く文徳天皇實録小 仁壽元年八月庚子朔壬寅授山
 城國掘雷米都久雷湯津波和氣神從五位下と有る四
 時祭式小 謂ゆる四月祭條あり霹靂神祭三座坐山城
 國愛宕郡神樂岡西北と有る是あり神代系圖傳小 神
 樂岡明神者雷神也号裂雷神見吉田之地主神也云々
 と有る右の三神と合せ奉り裂雷神と申せりあり
 猪其牟狹神と釋紀小 生靈神と作記 傳小 引れり
 魂神と後せ小 生玉神と申せり其同神小 謂ゆる生國
 坐神八座の中あり生産日神と 別り 大己貴神の
 荒魂大國魂神と 御在り 坐あり可一 然し 牟狹
 上三百十下 小注るが如く大己貴神と大虫神と申せ
 り更 あり出雲風土記小 島根郡未官知小 虫野社有
 と大己貴神と記り 由云 り牟志牟狹と 通音小 云
 々と思ゆ但坐雷神と坐靈神と云り此ハ 其ハ 強シ 合
 せ鳥つ可り けり右の遠江國あり坐雷命神

社とバ其と一ハ難為しうけは ○又高市郡飛鳥
猶生雷神と有ハ本ハ從ハ可ハあり ○又高市郡飛鳥
坐神社四座 並名神大月 有ハ此御社の始ハ出雲神
賀詞ハ賀夜奈流美命乃御魂ハ飛鳥乃神奈備ハ坐天
皇孫命能 近守神登 貢置天云ハ有ハ其始賀夜奈流
美命と鎮坐一の給ハあり然リ地神本紀ハ都
味齒八重事代主神の御名の下ハ坐倭國高市郡高市
社亦云甘南備飛鳥社と有ハ亦云ハ古ハ己ハ注リガ
如ク亦坐の誤ハあり此ハ事代主神ハ御在ハ坐
ありけり其證ハ紀略ハ天長六年三月己丑大和國
高市郡賀美郷甘南備山飛鳥社遷於同郡同郷鳥形山

依神託宣也と有ハ古ハ甘南備山ハ御在ハ坐ハけり
ありと別處ハ移ハ奉ハれハ同ハ賀美郷ハ内ハ
ハと以ハ其邊ハ凡ハて神郷ありハ事知ハる万葉九ハ二
丁ハ三諸之神邊山ハ立向三垣乃山ハ十三ハ三ハ甘南
備乃三諸山者春去者春霞立秋往者紅丹穂經甘嘗備
乃三諸乃神之帶為明日香之河之水尾速生多米難又
其反歌ハ神名備能三諸之山丹又丁石走甘南備山ハ
朝宮宮社奉而又反歌ハ三諸之山磯津宮地又丁味酒
乎神名火山之帶丹為留明日香之河乃速瀬尔生玉藻
之又三諸之神奈備山從之ハ大口乃真神之源從ハ也

有^ハ其鳥形山^ハ遷奉^ルル^ル以前^ノ歌共^キカ^ル此
 小^シ三諸山^ノ名有^ハ全^ク上^ニ四百^ニ注^スカ^ク三
 輪山^ハ本^ニ三諸山^ノ名有^ハ等^ト此^ハ其飛鳥神^ノ御
 室^セ小^シ名高^クリ^ト以^テ云^フ称^ル又^チ此所^ヲ神岳^ト云
 其^ノ神名^ハ備岳^ト云^フ称^ルと略^シ云^フ又^チ一名^ト雷岳^ト
 云^フ其^ノ由^ハ來^ル異^ル者^ト所^レ見^タリ^キ其^ハ傳^ハ十一卷^ノ
 雄略^ノ天皇^七年^御紀^ハ朕^欲見^ス三諸岳^ノ神^之形^云云^ノ
 事^ハ古^來三輪山^ノ事^ト傳^來ル^ル也^ト日本^書靈^異記^ハ
 其^ノ地^ト雷^岳と有^ト下^ニ在^リ古^京也^ト治^田宮^者と注^ス
 神^名式^ハ謂^フリ^テ高^市郡^氣吹^雷響^雷吉^野大^國極^御魂^ノ
 神社^ニ座^並名^神大^月次^新嘗^と有^リ御^神也^ト今^レ也^レ雷
 土^村雷^固立^セ御^在一^坐是^也カ^ル其^ト一^心
 得^バ也^ト諸^祭神^四座^ノ説^ハ大^和志^ハ事^代主^命建^御名
 非^ズ

方^命高^照姬^命下^照姬^命と有^リ然^ル類^聚三^代格^負
 觀^{十六}年^六月^廿八^日太^政官^符其^祖神^則貴^而有^封
 其^裔神^則微^而無^封假^令飛^鳥神^之裔^天太^玉攝^玉白^瀧
 賀^屋鳴^比女^神四^社此^等之^類是^也云^フ文^有飛^鳥神
 此^社之^御事^也天^太玉^命天^攝玉^命天^神也
 右^ノ四^神之^裔と申^ス可^ク也^ト白^瀧ノ^神名^式
 飛^鳥川^上坐^宇須^多伎^比賣^命神^社と有^リ此^ハ八^幡
 宮^と申^シ高^津比^賣命^ノ御^事也^可ク^也石^ノ高
 照^命此^神之^御事^也可^ク也^ト由^傳十五^{三百}六^注
 如^ク又^賀屋^鳴比^女神^ハ同^郡加^夜奈^留美^神社^と申

す有以此ハ右の下照姫命坐す事次ハ云ガ如ク然
り時ハ宇須多伎比賣命事代主神ハ御祖神也
渡給ヒ加夜奈留美命其同母妹也御在坐
ねバ右の天太玉櫛玉ニ神とも合せて其祖と云ヒ裔
ハ云べく思ふ此ハ格文ノ例
多くハ其属社と裔と云ヒ事と云例と見ハ其定
めて此ハ飛鳥坐神社攝神ノ謂也思ゆれ
姓氏録大和國神別天神飛鳥直天事代主命之後也有ハ
傳ナニ五ナニ注ル如ク中臣連ノ族也更ハ由無
く思ゆハ其四社と属社と見本社四座ノ説を定

ありハ社説ノ如ク第一事代主神第二健御名方神
三高照姫命と有ハ地神本紀ハ據誤ル者也其
實ハ高津姫命也謂ハ宇須多伎比賣命坐ハ
第四加夜奈留美命也渡給ハ可ク此二
神各別ハ御社ノ御在坐あり其本社ハ齋奉ハ神
を別社ハ齋祀ハ例餘多有事あり此也其如ク
めり若シ其天太玉ハ式ハ太玉命神社四座並大月
と有ハ是あり其属社也所以ハ豊受宮儀式帳
神祇官大史忌部飛鳥田野守と云入名有ハ忌部ノ
種族ハ飛鳥ハ住シ飛鳥ノ回首と名業ハ一姓有此本社

山仕奉り其社を氏社と爲て仕奉けり自然小飛
 鳥神社小属の物の如く成りし上六百四注
十九丁如く賀茂別雷神社賀茂御祖神社と齋奉り賀茂
 縣主其神胤ありを以て古の属社氏神社天大玉命と齋奉
 りと同ト例あり可あり又右の三代格小攝玉の二
 字脱たり今補へり校本小今謹檢神名式天大玉
 之次恐脱攝玉二字と有然り事めて是二字無き時
 下小四社と合せたり叶小じりと神名式の次第
 も大玉命神社小次て攝玉命神社四座並大月と有れ
 實然り事ありと知て補ひたりあり備此攝玉命

と申す天大玉命の亦名小御在一坐せ三本一飛
 鳥田首の齋奉り此も氏社あり故其奉社の飛鳥
 坐神社の属社と成りけり事右と同トあり可
 又上六百八十八丁小注三山城國紀伊郡飛鳥田神
 社と記略弘仁七年秋七月の下小鴨別雷神之別也と
 有とも考合可あり右の因大玉命神社攝玉命神
 社の忌部氏の祖神也天孫降臨の由緒の就し
 甚止事無き神社小御在一坐あり中臣氏の世
 小真盛の成りけり自然小衰し御在一坐し當
 昔神封も無しけり社の氏社あり一飛鳥社の
 封物を分り祀りし事あり一淺しあり一云へ
 ば更あり古語拾遺小至天平年中勅遣神帳中臣專權
 任意取捨有由者小祀皆列元縁者大社猶廢敷奏施行
 常時獨歩有由者小勤し思合然右小注三如く
 せりて甚足し事あり一然し右小注三如く
 此地を賀美郷と例二事代主神の御在一坐しけり地の

△其公傳其語... 神社條引て注せり... 和名飛鳥酒殿在... 園村上古二天石從天... 至尺接き入石面耶列... 槽と通相傳言流... 神酒於此二百事代... 主神の酒と練一給... 一母を交ふるとも... 神代の神世流とて... 一河一又下二十四... 給

りける、神賀詞ハ賀夜奈流美命乃御魂辛飛鳥乃神
 奈備本坐りハ御兄事代主神の御魂を留りさせ給へ
 神奈備ハ御在坐ハ奉給へり由と聞えさせ給
 へり義々其始ハ取べりハあり楮出雲風土
 記ハ神門郡多伎郷郡家南西十里所造天下大神之御
 子阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之故云多吉神鳥三
 多と見えたりハ地神本紀ハ下照姬命と高照光姬大
 神命と別神と爲りハ誤り古事記ハ高比賣命亦
 名下光比賣命と見え天孫降臨章ハ下照姬亦名高
 比賣命と有り其高姬命の御名と所思りけるハ阿
 比賣命

陀加夜努志ハ大高屋其神御在所也多伎吉比賣ハ高君姫ハ
 古右謂ゆる高姬命の御本名也大己貴神の公主
 御在坐す由あり可也此賀夜奈流美命と三
 代格ハ賀屋鳥比女神と有共ハ賀夜奈流ハ高屋ワカヤ在
 比
 其阿陀加夜努志と同一義範の美ハ女也此
 女略あり如此く碎き見りハ大己貴神の御女ハ
 何外此の御子ハ御在坐上件ハ注ハ飛鳥神四座
 の中あり下照姬命ハ御在坐事更ハ疑有るハ
 者ありける若く又別ハ神名式ハ加夜奈留美神社御
 在坐ハ此四座の中ありを別ハ今齋くれたりける

事ハ神賀詞ハ飛鳥乃神奈備坐と有り是正しく其
 本社ハ御在一坐ヲ證ありけり其心爲べし御事ハ
 ありけり天武天皇朱鳥元年御紀ハ秋七月己亥朔
 癸卯奉幣於坐紀伊國國懸神飛鳥四社住吉大神と有
 之當昔世ハ時めハ御在一坐ける御社ありけり
 神階ノ御事物ハ見えず三代實録ハ貞觀元年正月廿
 七日甲申奉授大和國正三位高鴨神從一位と有り高
 鴨ハ飛鳥と書誤ハ者と思しハ其並ハ從二位
 鴨河治須岐宅比古庄神從一位と有ハ高鴨神ノ御事
 ありハ同ト神ハ重ハ同ト從一位を進奉しハ給ハ

心事ノ有ベリハ思えハ此神位ハ必飛鳥神ノ
 御事ハ所見たりけり然ハ其時ハ從五位下
 御事ハ預ハ給ハ其本ハ社ハ御神ハ然ハ御會ハ釋
 命ハ御事ハ見元ハ其時ハ從五位下ハ玉神ハ梯
 玉命ハ並ハ從五位上ハと有ハ以ハ愈ハ著ハ明ハ者ハあり
 此御社ノ御事先達ノ諸説共ハ甘ハ得ハ無ハけ
 有ハけハ○又高市郡川俣神社三座ハ並ハ大月ハ今雲梯村ハ
 御在一坐す是謂ゆる卯名手乃杜ありと云り即出雲
 神賀詞ハ事代主命能御魂年宇奈提年坐ハと有り是ハ
 記傳年一ハ六ハ十ハ和名ハ比ハ高市郡雲梯年宇奈ハ鄉ハ有ハり
 万葉年三ハ十ハ直鳥位卯名年手ハ之ハ神杜ハ之ハ云ハ十二ハ二十ハ八ハ十ハ

不想乎想常云者真鳥住印名千乃杜之神思將御知ふ
 と詠り神社の御事と聞えたりと云れと 諸上 五百八十四丁
 の注りか如く右の不想乎云と問答歌あり其先
 の紫草乎草跡別 一と有り其答の紫者灰指物曾云
 と有て其不想乎想常云者云との答の足千根乃母之
 召名千雖白路行人乎孰跡知而可と有り其問の想ハ
 ぬと想ふと云い印名千乃杜の事代主神と申す
 神の御在し坐せし想ふり想ハざる其實の事ハ知
 らぬとありと其答歌の意ハ母也知り許りと思ふ
 人ありむふハ其人を誰と答も爲り可りといと路

行觸の外ハ一人を誰と知たり思ふ人とい定り可
 きと云り此二歌共ハ事代主神の名義を明せり
 か如き者あり又上 二百二十五丁 引り万葉四 二十 不念
 乎思常云者大野有三笠杜之神思知三と有り筑前國
 御笠郡御笠杜の神ありと其隣ハ夜須郡ハ雲提御
 和名枚ハ所見たりと以て思ふハ其也此大和ありと
 等しく事代主神少て渡りせ給へり御事著明りけ
 水ハ合せて其義を曉り可き者あり 記傳十一卷 六十六丁

右ハ神賀詞を引て云く彼文ハ事代主神命能御魂乎
 飛鳥乃神奈備ハ坐賀夜奈流美命能御魂乎奈提ハ
 坐天と有り此ハ混りて誤り物あり可し其故ハ飛
 鳥神社事代主命少て加夜奈流美神社ハ雲提村ハ

水
 座摩平奈神座
 自有座摩平奈神座
 提訓くして御溝
 水神あるが故に其名
 と生井神座井神津長
 井神と申し

在と今國人も云うと云れ又後釋も其説有れども
 此の本の仕りて軍し事此の述りて以知べし
 儲字奈提と云ハ上六百注りか如く御紀の多く溝
 字と訓り又神名式ハ大和國添上郡字奈太理坐高御
 魂神社大月次相と有る字奈太理も井之岳あり又其
 宇奈提の事を井平と云り井平五川あり云類是ふ
 り又攝津國島下郡井於神社と志ハ在宇野邊村と云
 りあは是章奈提と宇奈提井於と宇能倍あり章と
 宇の轉し云り例あり和名改ハ溝釋名云田間之水曰
 溝縱横相交稱也和名又渠同上と有る此ハ宇奈提の
 稱無りハ漏たりありあり万葉七七泊瀬川流水尾之

湍平早井提越浪之音之清左十六朝井代尔來鳴果
 鳥十一三十一朝東風尔井提越浪之又三十一玉蔭川井
 提乃四賀良美十四十三伊香保呂能夜左可能鳥提
 尔と有ふど井提ハ井道あり田カ引す水カの通と路
 と云て皆右ハ謂ゆる溝の事を云あり宇書も田畔
 溝曰洫ミナと見え俗ハ此を田溝カミツとも云あり然し其洫
 と云ハ川水を塞別て田引りりて云故ハ此の川俣
 神社即宇奈提あり元ハ能當り事あり此所をとも
 事代主神の神宮と爲りて御在し坐す所以ハ如何と
 云ハ此一書ハ事代主神化鳥八尋熊罴通三島瀆楳

と有て上五百八十九丁の注るが如く溝撒姫命の正身一本
 より靈神して渡りて給ふの故に事代主神の婚ひ給
 ふも鰐龍と化て通ハせ給ひけり實に其宇奈提
 と云べし川俣神社の御靈を留めさせ御在り坐せ事脱
 ハ必正の然有ぬ可し御事あり有ける即畝傍山の
 西北の川と云流有て其傍ある今、葛上郡雲揚
 村の御在り坐せと俗に八俣八王子社と申す事あり
 予も往年見奉りて今だも甚く神佐備たり杜の狀
 と以て古の御盛元を想像奉り御事ありと神階
 の御事ハ三代實録の貞觀元年正月廿七日甲申奉授

上の鳥居の傍に宇
 那子森有り

大和國從五位下川股神從五位上同六年九月授
 大和國從五位上川神正五位下と所見たり右の三
 座ハ事代主神溝撒姫命と二柱の外ハ何れも合せ祀
 りあり可し姓氏錄大和國皇別川俣公日下部同
 此の姓あり其祖神を合せて三座あり也知べり
 り又夫木集の大綱言隆房卿神の坐す卯名子の杜
 を朝行けバ聲の手向て十鳥鳴ありと詠ハ神名式
 の謂ゆる美作國若東郡高野神社是あり由曲己の上二
 百二丁の注るが如く借祝詞考今本ハ宇奈提ハ
 坐と有れども如此同ト事と並べ云中の是の違ひ
 了ハ文を成さず故に神奈備と云ふ四字を神ひつと
 云水たれども此ハ其神奈備よりハ溝と主と爲り御
 社あり無き可し○又神名式ハ河内國石川郡鴨習太
 神社一本鴨羽太神社と有り若其羽太の方あり

小八上 六百四十七丁 小注カカ 如ク秦氏本系帳カ鴨
下上松尾三神ノ御事ト云テ是以秦氏奉祭三所大明
神云々ト云事有けルハ山城國賀茂神社ハ齋奉ル
秦氏ノ此カモ仕奉ル社カモ其委シク由ハ上
六百カ注リ又安宿郡社本神社ニ座 並名神大ト有
十丁 風土記カ安移郡社本神社 一本云社本郷有
代主命也ト有り今一座ハ溝藏姫命カ坐ベシ河内志
社本神社 在古市郡駒谷村一座称山神一座称水神ト有カ山
神カ亦名を大山咋神ト申奉ルを以テ申セカ有
可ク其水神ト申ルカ其カ上六百カ注ルカ如ク溝藏

姫命ハ水分神カ御在シ坐ルカ然申セカ有カ
可ク三代實録カ貞觀元年正月廿七日甲申奉授河内
國從五位下社本神正四位下同七月十四日丁卯遣使
諸社奉神寶幣帛カ納言兼侍從從五位下良岑朝臣經
世爲社本社使カ見仰公事根源四月祭條カ社本祭上
申日河内國カ侍リ神社カ午日使立フ仁和五年四
月カ祭カ始カ有カ然カ諸社根源記カ社本祭
文徳天皇仁壽三年癸酉公家遣内藏寮使令供奉事自
此時始之或云仁和五年二月始之午日使立ト有カハ
其以前カ已カ令行給カ有カ然カ何カ依

と云事未詳多し本朝月令の上申杜本上西當宗
兩社祭事太政官符左右馬寮應以一寮御馬文供奉杜
本當宗兩社祭事右得河内國解你謹檢案内杜本當宗
二社祭皆供奉兩社相去其間不遠而左馬寮率官人長
上騎士馬部廿四人率御馬十疋申日供奉杜本社右馬
寮如此百日供奉當宗社内藏寮官人雜色等費御幣供
奉兩社三箇寮使留宿國府四箇日間諸郡供給行還二
宿行路多煩孟夏仲冬兩度經營今諸郡司等共愁申云
件兩社祭物煩下以望請准内藏寮使一人供奉二社然
則神事無關郡司省煩省國加覆審所申有實望請官裁

左右馬寮夏冬相替以一寮御馬供二社祭事者右大臣
宣奉勅依諸者兩寮宜兼知依宣行之延喜九年と百し
夏冬兩節共小當宗祭と同時行はれたり者あり當
宗と云は忘記郡當宗神社三座並大月次新嘗と有り
是あり頭注小新國史云仁和五年四月し亥詔朕之
外祖母當宗社在河内國自今年始可祭之と有り姓
氏録河内國諸蕃小當宗忌寸出自後漢獻帝四世孫
山陽公之後也と有り是あり宇多天皇の外祖母と
申すは天皇の大御母皇太后班子と申奉り光孝天
皇の皇后と申す仲野親王の御母女あり其仲野親
王の室ハ當宗氏ありと以て其氏社と如此令祭給へ
り者あり然らば杜本社と其と同時令祭給へ
此も其氏人の仕奉り社と其と同時令祭給へ
天照玉命神社と氏神と爲り社と爲り如く諸蕃の人也我が
皇神等を氏社と爲りけり右の當宗神社も案外
小蕃神あり我が皇神等ありと云ふ
○又高安郡御祖神社鴨神社ハ上

六百四 小注一奉水山城國愛宕郡賀茂別雷神社賀
 十六丁 茂御祖神社小等一々御在坐バクれ若江郡
 川俣神社登石小注セ大和國高市郡川俣神社三
 座大月次ハ新嘗謂ゆ宇奈提事代主神渡セ給
 小御事小思合す可今川俣村小坐リト云同郡
 長柄神社姓氏錄大和國神別地祇長柄首天乃八重事代主
 神之後也所見又澁川郡鴨高田神社申す
 見ゆ〇又和泉國大鳥郡鴨田神社一本田字無く一
 鴨神社有姓氏錄大和國神賀茂朝臣大神朝臣
 同祖大國主神之後也有和名抄上神加無都郷

▲志公外賀茂社
 左新村ニ云ウ

と云有ル必由有ベ又日根郡日根神社歟上六百
 丁小注如く和泉志大井堰大明神日根郡惣社
 也云と云ハ諸國の例大井神社聞ゆる皆事
 代主神渡給ヘ同郡比賣神社歟同書小
 俗曰下御前在大井堰社鳥居邊云又日溝口大明神
 此社在溝口村前故云非神号と云溝口村の地名
 小依テ溝口大明神申セ井堰ハ田地木
 を引溝口と云溝口と溝楫言相同ト御
 けハ此比賣神社其后神渡給ふ可御
 事申更あり然和泉風土記日根神
 社所祭饒速日命也比賣神社所

宗大宮比咩命也と云々ハ如何有也猶能考ふ可き事
共あり又其日根神社の御事と和泉志の縁起由昔神
鳳降于大鳥郡立社祭之天照太神所化也聖武天皇御
宇勸請于此と云々神鳳。説ハ鴨事代主神ハ御事と
鴨建身命ハ咫鳥化て神武天皇と中洲ハ導之開
元とせ給へハ故事と又取違へたり者あり可く且天
照太神と申せりハ日根。○攝津國島下郡三島鴨神
言ハ依て安ん云ある可し
社ハ事代主神溝檝神社歟ハ三島溝檝耳神又其御女
三島溝檝姬命ハ渡り給ふ可く太田神社歟ハ天日
方奇日方命めて御在り坐べき所由己ハ上五百九
委し注し奉りハ如し然ハ溝檝姬命ハ謂ゆハ伊
古奈比賣命の御事ハ此事代主神の當后めて渡
りせ給へりハ本后阿波咩命の御社此ハ御在り坐ず

此ハ就て考ふハ同郡石門別神社御在り坐ハ由有
けある御事あり然ハ土佐風土記ハ土佐國有朝倉
郷ニ中有社神名天津羽ニ神天石帆別命今天石門別
神子也と有ハ如く天津羽ニ神ハ天石門別命ハ御子
ハ坐セバ其從記あるハ御在り坐しと思ゆハ由
ハ齋明天皇五年御紀ハ謂ゆハ筑前國あり朝倉社ハ
神名式ハ上座郡麻呂良布神社の御事ありと其ハ石
の上佐郡朝倉神社と所祀共ハ等ハ可きハ其天
津羽ニ神と申すハ上五百
波咩命の御事ハ御在り坐ありハ和名坂ハ上座郡三

島郷有ハ攝津國の三島の地々合々を以て其由緒有
 事と知れ、故ハ然レモ非ト、ハ云あり、即上五
 二丁ハ注リ、如ク伊豆國賀茂郡伊豆三島神社名神
 大月次新嘗ハ攝津國トテ移奉ル、御社あり、其伊
 古奈比賣命神社名神大ハ當后トテ湍櫛姫命ハ渡
 世給ヘル、其也此ハ出トセ給ヘル、其阿波神
 社名神大也亦右の縁あり、此三島トテ共ハ御在、坐
 山積神社名神大也即三島社あり、事上大百一丁ハ注
 有ハ其從祀ト坐、事代主神ハ后神トテ由有リ、又高市
 多祁知ト有也、大和國高市郡高市御縣半鴨事代主命
 神社ト考及、○又河邊郡鴨神社攝陽群談ハ賀茂神
 社在賀茂村宗神別雷命ト有リ、姓氏録攝津國神ト鴨
 部祝賀茂朝臣同祖大國主神之後也ト有ハ此御社ト

○又攝津ハ有馬郡
 外賀茂神社在
 村ト云ル也有り

社奉ル神祝あり可、又同郡多大神社其御高天
 根子命ト坐、同録ト神人大國主命五世孫大田ト
 根子命之後也、又神直同上ト見元知名坂ト大神於保
 郷有ハ是あり、由上五百二ト注リ、如ク、○又八部郡
 長田神社名神大月次ハ神功皇后元年御紀の御託言
 小幡荻穂出吾也於尾田吾田節之淡郡所居之神有也
 問亦有耶答曰於天事代於虛事代玉籤入彦嚴之事代
 神有之也ト有、淡郡ハ河波國ト云テ下文ト謂、ハ
 稚日女尊の御事あり、由傳二十五ト己ト注、ト奉、ハ
 如ク次あり、ハ釋ト引、ハ河波郡事代主神社是あり、右

小相對して亦稚日女尊誨之曰吾欲居活田長峽國因
以海上五十狹茅令祭亦事代主尊誨之曰祠吾于御心
長田國則以葉山媛之字長媛令祭と有り其稚日女尊
八即八部郡生田神社名神大月以相嘗新嘗是あり其於天事代
於虛事代玉籙入彦嚴之事代神と申奉り御名ハ於天
於虛ハ字の如く天上のみも虚空のみも此神の御徳
の遍く行渡り給へり謂めて古事記ハ媛田毘古神
の御消息とハ上光高天原下光葦原中國之神於是
有と有る事ハ違ひて意味ハ相似たり可一玉籙入彦ハ
釋小依父大物主神化入櫛笥表父姓之義也と云ハ當

くゞり可一允て某入彦某入姫と云ハ物ハ親姫と
由を表し云例と聞ゆ此ハ其后玉攝姫命と御
カと戮せ御在り坐す義を以て御名小負せし給へ
りありけり嚴ハ稜威の威嚴めり由めて此女神の
靈籠神として渡り給へりと要り給ふと爲すハ八尋熊
鰐の狀小化し御在り坐て甚可畏く物爲し給へ
り其即玉籙入彦と申奉り所以あり事代神ハ主字と
脱當有坐字せりあり説も有れども容易く補ひ難く皆此
時事代主神の頭ハ聞えとせ給へり例の御尾前
小御立し御在り坐て守護り聞えとせ給へり如

此く天神御子の行幸の御度如無小物爲させ給ふ御
事ハ必彼國遊の御時小契聞えさせ給へり御提小
依らせ給へり者ゆして尊しあど聞えさせ給ふ中
尋常ある御事ハあり有ける此宮所ハ知名歟ハ八部
郡長田^{奈加}郷と見え今も長田村と云ふ鎮ま^りせ
御在し坐り社記ハ本社事代主命左伊勢右八幡と云
う其伊勢と申すハ此時ハ共小頭ハ此とせ給へり
天疎向津媛命ハ御在し坐へり八幡と申すハ其御祖
玉依姬命ハ^り渡らせ給ふ可^り又末社五所有り
一ハ松尾此ハ大山咋神ハ坐り二ハ蛭兒此ハ本宮ハ

伊勢を皇太神と爲り言初る可きハ彼廣田神
社を荒夷神と申せと記せるハ三月讀尊四ハ大
社此ハ御祖父あり御父あり五ハ稻荷社有り先
於天事代於虚事代玉藏入彦巖之事代神ハ此事代主
神ハ坐りて天神ハ方ありて神祇官西院坐ハ神
の中あり^傳代主神ハ坐りて思ひ^りとも其ハ非^り
けり其ハ姓氏録左京神別中天神ハ畝尾連天辞代命
子國辞代命之後也と有と和泉國神別天神ハ畝尾連
大中臣同祖天兒屋根命之後也と有と合せし其ハ天
神ハ其^終別あり事云も更^り然^り此ハ事代主
神ハ相親^し所以有^り大同類聚方十八卷ハ畝尾藥
山跡國葛上郡鴨都波八重事代主命社耳傳布流方祝
部畝尾連鳥麻呂上奏留方也と有て賀茂神社ハ奉
う又大和國神別天神ハ飛鳥直天事代主命之後也
有^り飛鳥神社ハ奉^りて坐^り其^天兒屋命ハ御母許
此事代主命ハ殊^り親^し坐^り其^天兒屋命ハ御母許
登能麻遲^姻媛命と事代主神ハ天津羽^神ハ

△脱字有りて在木
神社ありと云々然
時少彦名命御
在—主—但

共小天石門別神の御女を以て可然れども
天辞代目命の言語を主り給ふ神あり由傳廿二卷五
十九丁の注に如く此事代主神ハ大物代主神の對
た御名あり物之事との相分れ知給ふ謂ある事
止五百六十七丁の注に之を見
其差別有り事と知る者あり ○神名式小伊賀國阿
拜郡佐、神社伊水溫故の往昔ハ近江國佐、一説ハ佐、下嶽小宮
居守神体ハ事代主神命号佐、明神と有り、三代實録
小負觀十五年九月廿七日己巳授伊賀國從五位下佐
二神應感神阿波神宇奈根神並從五位上と有、此四
社共小御族の神等と見ゆ、然時ハ此佐、神ハ石の事代主神
小御在—坐あり、其應感神ハ式小謂ゆ、波太伎神
社を風土記小阿辨郡國府山有神号波太伎社所祭仁

△見え又名張郡大六
相能神宮中有り
貴布祢同作との

△伊水溫故の名張郡
伊名居神、伊手尾村
在、宇奈根社、
伊賀郡、伊賀

徳天皇也と有を伊水溫故の國府湊の次森と云有
國府森と云辭ハ可一往昔此森の社頭有り号貴
布祢宮神体ハ高靈と云龍神也と云、式外ハ右
の應感神少、渡、給ふ可、阿波神ハ上二百四小
注り如く山田郡阿波神社是めて事代主神の本后
天津羽二神の御在—坐事代主神ハ定宇奈根神ハ根ハ提を
誤り、宇奈提ある可、大和國高市郡侯神社月
次新ハ謂ゆ、宇奈提ハ事代主神の坐とも思合了
可、者あり、但其社未詳あり、上田百樹説ハ名張郡
と有、と奈と脱、泥を流、此ハ本宇奈泥富志流
云、旧訓遺り、又伴信友説小伊賀郡平美

祇神社の美い奈を誤れりあり宇と平と通り云例
ハ宇佐支と平佐藝宇介良と平介良おど云り又宇と
宇とハ畫の似たり誤れり云と云り猶正可き事
共あり備右の云る國府湊の名ハ山國の似著ハ
田郷へ水落るあり昔ハ舟著たりと思ゆ水上ハ船戸
と云所有り云るハ昔ハ古ハ湖水ふどハ漣たり
けり然ハ古名の遺れり然ハ漢と云
ハ舟戸と云稱の有り伊賀國式外ハ事代主神を祀れ
り神祠ハ伊水温故ハ阿拜郡小田村平井天神宮事代
主命也宮地ハ字ハ平井と云ニ流有り云り又同郡大
野木村天王宮事代主命風土記と見え又島ヶ原領中村
鷄宮天神都味齒ハ重事代主命也大己貴命長男風土記
と有り又山田郡山田山安寧天皇此山ハ事代主命の

社を造立一河田大明神と勅号す風土記と有り備上ニ
ハ四丁ハ注りハ如ク伊賀國ハ本吾娥國と云ハ猿田彦
神の主領ハ御在ハ坐一國ありけハ始ハ事代主
神ハ大ハ所以有ハ國ハ式内の諸社共ハ多クハ
其神ハ係りたり事ハ多ク在りけハ猿田彦神即事代
主神ハ坐す由ハ上六百五十八丁ハ注りハ○神名式ハ伊勢
國度會郡鴨神社皇太神宮儀式帳ハ鴨社一處稱大水
上兒石已呂和居命形石坐倭姬内親王定祝と見え同
帳未官知社ハ鴨下神社一處大水の上兒石已呂和居鴨
比古賣命形無之と有鴨比古賣と頭書本ハ鴨比古賣ハ作

一木あり鴨比古命鴨女命と有り此大水上命と申
 す五百九十八丁注あり如く大山罪乃御祖命と大
 水上御祖命とも同帳小所見て即大山祇神の后閨靈
 神ありて謂ゆる三島溝楸耳神小御在り坐せば鴨と
 云事由有山石の鴨下神社の如く石已呂和居命ハ
 鴨比古命の御名あり鴨比女命ハ其御女の謂ありけ
 り然して其鴨比古命ハ事代主神小渡り給ひ鴨比
 女命ハ溝楸姫命ととも思成り奉り御事ありけ
 此諸其石已呂和居ハ石凝別と申す事あり上二百五十八丁
 此両社の御事小就て注り奉り如く其此事代主神

の亦名を大山咋神と申奉りて山を鑿り水を通りて
 大山國作の御功を建させ御在り坐けり意の御名ハ
 り者あり但此神を大己貴神の御子小渡り給へり
 を大水上命の御兒と云時ハ事違へり小似たりと雖
 も其御女高水上命を娶り給へりを以て合せて其御兒ハ
 申奉り多あり有けり且但馬風土記小出石郡出
 石郷谷山川川上有神号水上社所祭事代主命と有也
 大水上命高水上命と御徳と等し爲させ給ふ故小
 此事代主命を祀りて水上社と申す称有と曉り可
 者あり石の鴨神社ハ今山城田郷神村鴨谷と云小御在
一坐一鴨下神社ハ其鴨神社の上あり小

△若古の比古命と
 事代主神と見しは
 上命の御子と申すに
 五百五十丁の注り伊豫
 國大山積神社の事
 代主神と見しは
 祀り同く皆其
 后神と祝を御すと
 申すに

對へて下と云ある可く同郷狩田村と云坐と云る
 ハ鴨田の轉ある可き也猶上二百五十八丁云るを
 合せ見 ○同郡狹田國生神社儀式帳ハ狹田神社一處
 稱須麻留女神兒速川比古速川比女山末御玉三柱形
 無倭姫内親王定祝と有り須麻留女神ハ上二百五
 注一奉り如く玉依姫命の御事ハ即事代主神
 の御祖ハ渡り給へり其速川比古速川比賣二神ハ
 其遠裔の神、又石件鴨下神社の例を以推す若く
 ハ事代主神溝檝姬命と然稱へ申せり如くは知
 うづ世記ハ此時ハ速河彦詣相支と有れども其
 當時の人の靈と倭姫命の祭り給ふ心事ハ如何

ハ上ハ其次ハ出らる山末御玉ハ神名秘教ハ山末御
 玉命一名大山咋神一名山末大主神是也と云り即傳
 廿六 百六十上 三十二丁六 小注り如く其神即事代
 主神ハ御在り坐を以て又猿田彦神と申すも其事代
 主神同神ハ渡り給ふ御事を見奉り知べき者
 其委り事共ハ上二百五十五丁ハ注りハ今更ハ
 云ず諸此御社の所在を湯田郷佐田村ふりと云り
 古其大神の御在り坐 ○又神名式ハ同郡山末神社此
 けり神迹ハあり ○又神名式ハ同郡山末神社此
 ハ度會宮の攝神あり所祭石ハ同く山末大主神ハ
 渡り給ふ可き御事申すも更あり諸皇太神の攝
 社ハ溝檝姬命と思ふと數多見え給へり

ける式の坂手國生神社と儀式帳の坂手神社一處稱
大水上兒高水上形石坐と有る越前國大野郡坂門一
事神社大野國生大野神社坐り一事神ハ事代主神の
荒魂ハ渡ル給ヘ由上二百五十六丁ハ注ル如
くありハ大小所以有る御事あり又久久都比賣神社
ハ儀式帳ハ久具社一處稱大水上神御子久々都比女
命又久久都比古命形石坐と有る上六百十ハ注ルハ
如く河内國石川郡美具久留御玉神社と同名ありハ
其ハ和ル社神とも申しハ事代主神溝織姫命二柱ハ渡
るハ給ル可シハ合セ此ハ久々都比古命久々都比

女命も其と同神あり可シ御事を明ス可シ又江神
社と同帳ハ江神社一處天須婆留女命兒長口女命形
在水と有る天須婆留女命ハ右ハ注ル如く事代主神
の御祖玉依姫命ハ渡ル給ヘ此ハ其溝織姫命
ハ坐ベ長口女と申すハ靈龜又鰐ハの狀ハ似テ著ク
御名ありハあり又同帳未官知社ハ小社神社大
水上兒高水上命形石坐又石井神社大水上兒高水上
命形石坐又宇治乃奴鬼神社大水上兒高水上命形
石坐と有る此三社同神あり中ハ小社神社ハ石井神
社ハ石部氏の氏社と齋ク神ありハ上五百二十ハ注ル

如く事代主神の溝藏姫命とて令生給へり天日
方奇日方命の坐せし其外祖の方を以て氏神と爲り
めて是ふどが其高水上命と申すは正計の溝藏姫命
あり証の立べき事ありけり又川相神社大水上御子
兒細川水神形石坐と有は上六百十の注せり山城國
愛宕郡鴨川合坐小社宅神社名神大月次相嘗新嘗の例あり細
川水と申すは即溝の事ありけり此も其溝藏姫命
小渡と給ふ御事申すも更あり如く事代主神の
の多りける御祖大水上命と共に此地の大由あり
神あり可し然れは或社の所狹きより數多も御在
坐すは彼狹長田五十鈴川上の地神の御在坐すは

天一歌田神社大
山祚神坐事上持大
小注せり

縁ありけり故有る御事ありけり○又飯野郡神山神社の神ハ
賀茂あり此と猿田彦神と申せり事由有る可し
又鈴鹿郡大井神社二座檢録と云物ハ今河曲郡川邊
郷高岡川の北と云ふと云はり又員辨郡鴨神社在丹生
川村又賀毛神社在野尻村東と云り○志摩國の事ハ
式社ハ見えど其風工記ハ答志郡伊佐部鱸
叢神社事代主命也命鱸魚祭天神地祇之地と有て甚
止事無く御在坐けり神迹あり又島者安曇別神
ニ迹也云々天日方奇日方命至此舉言云豊志摩魚足
三國哉後竟爲國名と有る事代主神御父子共の殊ハ

所以有國ありけり故兵部省式志摩國鴨部磯部
の地名有て世々名高之事上二百七丁注カガ如一儲
右の鱸藪志陽略志と云物小在相橋城門東南家士
宅地と云ひ又加茂明神社在舟津村移城州加茂明神
云不知勸請何世誰人兵川謂加茂川郷謂加茂郷と有
以鳥羽小隣なる地ありけり此も其鱸藪神社小
坐べりけり神宮雜例集志摩國賀茂村神田と
見元神鳳抄答志郡賀茂村と有此と云ふ可
又略カ加茂大明神社在岩倉村と云ひ其邊の地名小松尾
村又狭田海狹田濱と云ふ有て以て此事代主神小

深く所以有御事共をふと思合す可けりけり儲古
事記援田昆古神段小天宇受賣命云於是送猿田昆
古神罷到乃悉追聚鱸廣物鱸狹物以問言汝者天神御
子仕奉耶之時諸魚皆仕奉白之中海鼠不白尔天宇受
賣命謂海鼠云此口予不答之口而以紐小刀折其口故
於今海鼠口折也^折是以御世二島之速贄獻之時給援
女君等也^有故事先有て後小石の鱸藪の事有
ある可^然天日方奇日方命其後小御在坐
て此小往せ奉い天神御子御贄の急ぎも己く神代
より物爲りせ給ひけり一事代主神の國土を避聞え

せ給へり後めも天神御子の御為小如北く忠誠
 小成一提聞えりせ給へりを以ても天神御子と中洲
 小安置奉りて給りし神量の御在り坐けり御事を見
 奉り知りし流りて涙止め難き迄ふあむ記傳十六卷
 摩國ハ殊々御費を献けりし國万葉六卷三十九
 丁小御食國志麻乃海部有之十五卷三丁小御食都國
 神風之伊勢乃國今京ありり三代實録
 小元慶六年十月廿五日志摩國年貢御費四百三十一
 荷令近江伊賀伊勢等國驛傳貢進内膳司式小諸國貢
 進司料之志摩國御厨鮮鯨鯨起九月盡明年三月月
 毎上下旬各二擔味漬腸漬蒸鯨玉貫御取更鯨等月別
 惣五箇擔雜魚十三擔葺料云志摩國云主稅
 寮式小凡志摩國供御費廿人云志摩國云見元
 と云れりたり如く少御世御費を年貢と爲
 絶ず社奉來り事神代小起りて久し例ありけり
 絶せし至りて其汰汰無きハ神世の遺風を同失ハ

せ給へりハ神慮の程も甚可畏り御事あり然れども
 打續りて世の乱れけり間ハ何時と武士小其御
 食都國と奪ハれり如何ハ爲しハ○神名式小尾張國海部
 郡諸嶽神社所見たり大己貴神大山咋神二柱み
 御在り坐べりし事上二百八注カ如一又由乃
 伎神社ハ國內神名帳一本田從三位夜擔乃伎天神と有
 り風土記ハ雪田山出良材脩竹多禽獸有神号由木明
 神西之傍有神号油日宮大山咋之神與和子姫一本初
 也と有ハ式社ハ御在り坐りけり甚止事無
 自由有げり御社あり和子姫初子姫何れを正一
 ハ知りし式の憶感神社ハ靈籠神少渡りて給へ

る縁を以思ふ決く溝檝姫命と思しきあり然れども
和の方正しくして和子の推の義あり可き也和後人能
定奉り可し又帳の當郡正四位下大井天神宗形天神
從三位小杜天神あり見えたるハ何れも由有る神等
あり猶風土記の富樫山云々山麓有神号橋田社猴
田彦神所祭也と見え又玉置山有神号道主命云々此
御事上二百八十丁の注る如く其事代主神の御祖あり
又太石山云々山之南在神号猿田彦神とあり何れ
も得玉ありけり御由縁共半あり又神名式の羽
栗郡阿邊加神社帳の從三位足近天神とあり和名

抄の安食郷あり由有る味部高彦根神あり渡り也
給ふ可く又丹羽郡諸嶽神社帳の從三位諸栗天神と
有る右ありと同一の可き事申すも更あり又春日
部郡片山神社帳の從三位片山天神と有る集説の在
味園莊牛山村とあり和名抄の謂ゆる安食郷あり
可くや又山田郡片山神社此の帳の從三位片山天神
と有り上二百四十丁の注る備前國邑久郡片山日子神社の
傳の大山咋神と有る思合可きあり又和良神社
帳の從三位和良天神とあり八尋熊鱒の化給ひ
御事因りあり又大井神社帳の從三位大井天

神と有り ○神名式ハ參河國賀茂郡兵主神社と有ハ
上二百八十六丁ハ注カガ如ク八十式神ク渡ルセ給ヘル
ども和名坎ハ當郡賀茂郷有り其郷中ハ足助アヌケと云地
名も有ハ例ハ味耜高彥根神と阿受根社と出雲風土
記ハ有ハ例あり又額田郡ハ鴨田郷有ハ由有り式ハ
謁磐神社坐ハ右と同神カモモリ又渥美郡阿志神社
坐ハ亦同神カモモリ事上二百七十八丁ハ注カ同郡磯
部以曾倍郷有り又神島ハ名有ハ思合カ可ク又本國神
名帳ハ正五位下大井天神坐碧海郡と書ハ又式外ハ
以ハ名郡賀茂村賀茂大明神と申カ有カ神名帳ハ從

五位上於神天神坐ハ名郡と有ハ其賀茂攝神カ貴
船社カ有カ ○神名式ハ遠江國濱名郡弥和山神社
見元カ多カ風土記ハ弥和山神社坐田五十束崇峻天
皇元年所祭事代主命也カ有カ例も三輪山と云時ハ
大物主神カ御在ハ坐ベキ御事申カ更カ先カ
ハ疑ヒハ事カ近頃其説カ得テ上四百九十三丁ハ注
カ如ク大和國葛上郡鴨都波八重事代主命神社二
座並名神大月次相嘗新嘗ハ其始大三輪カ御在ハ坐ケルと瑞籬
朝カ移奉ルカ御事有カ更カ有カ大神朝臣ハ出自カ
賀茂朝臣ハ同トク其出自ハ事代主神カ御在ハ坐セ

又當國神帳の百
度神賀茂天神座
原郡賀茂地祖と有
て同郡賀茂神と有
天神と一社神と有
非神の事界と有
つるに於て此二社
事代主神と祀らる
可し事申すも更
り

又當國神帳の百
度神賀茂天神座
原郡賀茂地祖と有
て同郡賀茂神と有
天神と一社神と有
非神の事界と有
つるに於て此二社
事代主神と祀らる
可し事申すも更
り

又當國神帳の百
度神賀茂天神座
原郡賀茂地祖と有
て同郡賀茂神と有
天神と一社神と有
非神の事界と有
つるに於て此二社
事代主神と祀らる
可し事申すも更
り

又當國神帳の百
度神賀茂天神座
原郡賀茂地祖と有
て同郡賀茂神と有
天神と一社神と有
非神の事界と有
つるに於て此二社
事代主神と祀らる
可し事申すも更
り

幾神社所祭蛭兒也と有ハ世ハ事代主神と夷神と申
俗説の如^任蛭兒とハ云々其^イ實ハ味耜高
彥根神の御名の略多^イを足都幾^イと足の立^イざり事小
僻め云ありけり。○神名式ハ伊豆國賀茂郡伊豆三島
神社^{名神大月}此御社の御事と其本后同郡阿波^命神社
次新嘗
名神 當后同郡伊古奈比賣命神社^{名神}の御事ハ己ハ
大
傳十一^{四丁上}五十三丁^{六百六丁}ハ委^イく注^イし奉^イり又神
階帳ハ同郡從四位上大井明神と有^イ此ハ式外あり
又神名式ハ同郡加茂神社二座見^イ伊豆志^イハ一座當
磯明神賀茂磯^イ之處^イハ坐^イり大山祇命^イと祀^イり見^イゆ
一座ハ社辺加畑^イ北^イハ加畑明神^イ有^イり是^イありと云^イふ

○神名式ハ甲斐國山梨郡神部神社今在加茂村
加茂明神と申^イ所祭別雷神^イあり由^イ上^イ四丁^イハ注^イる
ガ如^イハ又風土記^イハ都留郡賀茂山神社所祭別雷神也
と有^イ此ハ式外あり又神名式ハ巨麻郡神部神社ハ
古^イハ同^イト^イ三社共^イハ別雷神^イハ坐^イり又山梨郡松
尾神社坐^イり大山咋神^イハ御在^イ坐^イり事申^イすも更^イあり
又大井俣神社ハ松尾同体^イあり上^イハ右件^イハ神^イハ社
号^イハ各別ありけり即事代主神^イハ御在^イ坐^イるもハ
賀茂季鷹^イハ富士日記^イハ何^イれ^イ御世^イハ山^イを穿^イり岩
を切^イり水^イを下^イげ^イ村^イ里^イ田^イ畑^イハ成^イりけり其

風土記八代郡長
江野長江河有姓
氏録別地郡長柄
首天乃八代事神
後也有合可

事を掌り一人を称へてササケ整裂明神と祀り（別）社今
巨麻郡小在と分其切落（一）流（二）富士川あり可（三）
あり古傳あり（一）上（二）下（三）注（四）セ（五）大己貴神大山咋
神の山を穿り水（通）流大井川を流し給ひ丹波國と作
りて御在り坐りけり故事（一）似たりも奇（二）事あり式
小八代郡佐久神社坐り右の整裂明神の類社あり可
り（一）ひ（二）あ（三）り（四）又巨麻郡笠屋神社を風土記（一）雄略天
皇四年庚子十一月所祭事代主命也あ（二）り見元（三）乃
其安（一）り事（二）上（三）四（四）十七（五）丁（六）あり（七）合（八）せ見（九）る可（一〇）り又
和名抄（一）山梨郡井上郷有（二）山城國愛宕郡井出雲井
於神社有（三）り又八代郡巨麻郡共（四）川合郷有（五）鴨川合
坐（六）り社宅神社（七）思（八）合（九）り可（一〇）り又山梨郡石手郷有（一一）磯

部ありて天日方奇日方命（一）由ありて考合（二）り可（三）りあり（四）り○相摸國（一）賀茂社東鑑建
久三年八月條（二）出（三）たり（四）神名式（五）高座郡寒川神社（六）名
大（一）御祖玉依姫命（二）御在り坐り深見神社（三）八間（四）龍神
小御在り坐り瀧楳姫命（五）渡り給（六）り事（七）上（八）五（九）十（一〇）
注り如くあり（一）大（二）由あり事共あり又和名抄郷名
小武藏國久良郡大井（三）於（四）保（五）兒玉郡大井（六）郷有（七）事
代主神（一）由あり地名あり事例（二）如（三）又安房國安房
郡大井（四）於（五）保（六）長狭郡賀茂有（七）り長狭（八）天孫降臨章（九）謂
ゆ事勝國勝長狭神（一〇）由あり考合（一一）り可（一二）り又上総國
郡名（一）長柄（二）奈（三）加（四）と（五）之（六）ハ（七）姓氏録（八）大和國神（九）別地（一〇）祇（一一）小長柄首天

日本書紀傳三十一

〇七百二十八

弘安十年九月十日
上高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下
高龍神從五位下

乃八重事代主神之後也と有思合す可又味蒜郡
三衆美毛鄉有ハ大三輪神と飛鳥神と三諸神と
申セ由有バ又郡名武射ハ右六百九十八注ス
大和國高市郡牟佐坐神社大月次御神ハ天武天皇
元年御紀ハ生雷神と有テ即別雷神同神ハ可シ
鄉名ハ加毛と云有テ合ル又三代實録下總國千葉郡三枝鄉相
馬郡大井鄉有テ風工記ハ相馬郡琴泊神社圭田四十
五束六字田所祭味相高彦根神也齋明天皇二年丙辰
二月奉圭田加神祀祭事又香取郡使田部神社圭田三
十二束三字田所祭別雷神也舒明天皇三年己丑三月

始奉圭田一行神祀祭事等也と見元ハ皆事代主神
の御事跡共あり右同件相摸國ハ下總國迄地名ハ
御事の見元ハ國司の奏上セ多見元ハ神社の
武社ハ有テ其地ハ就テ蛭子社と山
神代主神社ハ有テ事あり○神名式ハ常陸國那賀
郡大井神社和名抄ハ大井鄉有テ阿波山上神社同抄
阿波鄉有テ右六百九十五謂フ大和國添上郡率川阿
波神社ハ事代主神と其本ハ阿波咩命と祀ル
思ハ考合す可但ハ社鎮座と云物ハ古光
傳言昔者大山村呼為上粟山粟野村呼為下粟山祠即
在二村之上故祠有阿波山上之稱矣所祭少彦名命高

皇產靈尊子也と云る此祭神の説ハ此一書ハ少彦名
 命の御事を至淡島而縁粟莖者則彈渡而至常世郷矣
 と有り此故事ハ依て云初なるありし、三代實録ハ
 仁和二年十二月九日癸丑授常陸國從五位下阿波神
 從五位上と所見たり又多河郡佐波、地祇神社ハ同
 録ハ貞觀元年四月廿六日辛亥常陸國正六位上佐波
 神授從五位下と有り是ふるが同十七年十二月廿七
 日丙子授常陸國正五位上三枝祇神從四位下と有り
 此の御事ハて事代主神の御在ハ坐す大和國率川神
 社と大倭神社注進狀ハ三枝御子社と有ハ思合す可

事共あり 又内上六十丁ハ注るが如く同十六年五
 月十一日丁酉授常陸國正六位上飛護念
 神從五位下と有ハ味稻高彦根神あり可ハ又武の新
 治郡鴨大神御子神主神社ハ事代主神の御子鴨主命
 小坐す事己ハ上四百
 六十三丁ハ注り
 ○神名式ハ近江國滋賀郡日吉
 神社名神 古ハ大比叡神ハ比叡神と申來り其大比
 叡神と申奉り中ハ大比叡神ハ大國主神ハ渡りて給
 小比叡神ハ事代主神ハ御在ハ坐す古事記ハ謂ハ
 山末之大主神是ふる由傳廿六 百六十 小委ハ注
 奉ハ立返りて其卷ハ就ハ明ハ可ハ○又大
 上郡阿自岐神社ニ座和名抄ハ安食郷有リ淺井郡ハ
 江神社風土記ハ小江神社主田三十一束三字田所祭

事代主命也敏達天皇三年始行神礼加主田と見え又
 式小片山神社二座と云も有此辨下和名攻此辨下當郡大井於
 井郷ふと有也由有思ゆり又高島郡箕島神社太
 田神社ハ攝津國島下郡三島鴨神社太田神社の例
 事上四百七注ハ如又和名攻摺う神
 皇前御紀謂事代主神の御子鴨主と神名式
 常陸國新治郡鴨大神御子神主神此祀りて即
 天日方奇日方命の御事あり又社郷山城國愛宕
 郡鴨川合坐小社宅神社の神由有例
 玉攝姫命由縁百但伊香郡大社郷對
 あり別の事あり
 ○神名式小美濃國多藝郡久二美雄彦神社ハ右七百
 下注ハ皇太神宮儀式帳謂文具神社の祭神

今大同類聚方十五卷
 多藝郡久二美雄
 彦之神社傳流方
 二百一十同

久二都比百命久二都比女命ハ河内國石川郡美具久
 留御玉神社と同ト事代主神清檝姫命ハ渡給
 ハりハ似通給ハり御名あり續後紀ハ美和五年八
 月壬辰奉授美濃國多紀郡無位久二彦神從五位下と
 有ハ略て久彦神と申ありけり百莖根ハ
 在澤田村今屬石津郡久二美子神と有ハ澤田ハ清檝
 姫命ハ就由縁無非ず上四十注ハ如當郡
 多伎神社大神神社御井神社並坐り即御父母又
 御兄弟神等ハ渡給ハり考合可又安八郡
 加毛神社各務郡飛鳥田神社永万記ハ阿須賀社所

見たらハ上件より大和國高市郡飛鳥坐神社四座並名

神大月次相嘗新嘗 有之同神渡給ふ可之御事申す

も更あり百葦根ハ市場の枝郷飛鳥村ハ在リ神名記

正三位飛鳥田明神と有リ又山城國紀伊郡飛鳥田神社の御事とも思合す可

又和名坂ハ賀茂郡有リ席田郡磯部郷可兒郡大井郷

あど有也由有也地名あり其大井と云ハ木曾川

の落口あり今也 ○飛彈國式外ハ氣多若宮神賀茂若

宮神と申す二神御在坐リ三代實録ハ貞觀十五年

八月四日丙申飛彈國從六位上氣多若宮神從五位下

元慶五年十月九日甲申授飛彈國從五位下氣多若宮

神從五位上正六位上賀茂若宮神從五位下と有之是

あり其謂ハ氣多神ハ大己貴神賀茂神ハ事代主神

みて渡り給へハ氣多若宮神ハ事代主神賀茂若

宮神ハ天日方奇日方命と御在坐リ事申すも更

あり又和名坂郷名ハ大野郡三枝佐以阿拜阿二郷

有ハ大和國漆上郡率川坐大神御子神社三座と大三

輪神三社鎮座次第ハ春日三枝神社と書ハ率川阿波

神社と大徳神社注進狀ハ三枝御子神社と有之此ハ

事代主神と祭れりあり考及ぶ可之者あり

信濃國ハ筑摩郡大井於保佐久郡大井等の郷名有

て神社の事ハ所見無し ○神名式ハ上野國山田郡加

△頭注小太神也
と有り

茂神社三代實録小元慶四年五月廿五日戊寅授上野
國勳十二等從五位上賀茂神正五位下見元本國神
名帳ハハ從一位加茂大明神見元又式外同郡
從三位加茂明神邑樂郡從五位上長柄明神群馬郡從
五位上大井明神群馬西郡正五位上大井明神ハ有
ハ皆事代主神ハ新田郡正五位上阿波明神ハ本
后阿波洋命ハ可ハ群馬西郡從三位新渠明神ハ當
后滿撒姬命ハ坐ハ又山田郡從四位上磯部明神ハ
其御子天日方奇日方命ハ又勢多郡從五位上白
白河郡都ハ石和氣神社名神大ハ頭注ハ味ハ高彦根
命ハ百ハ同ハ御在ハ坐ハ可ハ上ハ六十二ハ下ハ見ハ

可○神名式ハ下野國河内郡二荒山神社ハ名神ハ一宮
記ハ味ハ高彦根命ハ書ハ其ハ本ハ事代主命頭注ハ
然ハ續後紀ハ美和三年十二月丁巳ハ奉授下野國從五
位上勳四等二荒神正五位下同八年四月ハ乙卯ハ奉授下
野國正五位下勳七等二荒神正五位ハ下ハ德ハ天皇實録ハ
嘉祥元年八月丁亥朔甲寅奉授下野國正五位上勳
四等二荒神從四位下文德天皇實録ハ天安元年十一
月甲午朔庚戌在下野國從三位勳四等二荒神充討戶
一烟三代實録ハ貞觀元年正月廿七日甲申奉授下野
國從三位勳四等二荒神正三位同二年九月十九日丙

日本書紀傳三十

〇七百三十三

寅詔下野國正三位勳四等二荒神始置神主同七年十
 二月廿一日 授下野國正三位勳四等二荒神從二
 位同十一年二月廿八日 授進下野國從二位勳四
 等二荒神階加正二位 有世名高き宇都宮大明
 神是あり宇都宮の^二大己貴神の珍子あり由を以て稱
 奉御事之所見たり式社考の河内郡宇都宮小在り
 大己貴命の八重事代主命健御名方命と合せ祭即
 奥州道の宇都宮大明神あり此社舊日光山の内白峯
 山の在り豊城入彦命勸請あり神護景雲年中今の地
 へ遷座あり攝社下宮ハ味耜高彥根命を祀る云々

但今^其二荒山神社之稱奉々を思へば中頃今の日光
 の地ハ御在り坐けり其時宇都宮ハ再移り奉れ
 るよて日光三社ハ其迹あり云々 一説ハ日光の本宮
 を與宇都宮同体味耜高彥根命新宮を大己貴命瀧尾
 を田心姫命めて即日光三社あり寂光を^二下照姫命
 ありと云々 性靈集便蒙ハ補陀落山本名ニ荒山祭大
 一説春秋ニ時有大風雨故名ニ荒後改日光者其音相
 近也亦名補陀落者倭語相近也と有祭神の説ハ然
 る言あり^二補陀落山の説あり殊ハ推ふる^一て云
 小女足^二附會ありニ荒ハ借字ありて謂ゆる男体
 山城命の古ハ何^二世ハ見^一聞^二爲^一給^二ハ^一且^二世^一ハ日光
 佛語を用ひ^二給^一此山の事ハ奇怪を云ふハ皆^二グ^一妄

日本書紀傳三

〇七百三十四

△又和名抄御名小都
賀郡三島鹽屋郡
白河會那須郡大井
等百一何れも田百
地名共あり

説あり歟、○神名式小陸奥國白河郡都古和氣神
事カレ、有と頭注小味高彦根命也と云、續紀小
御事ありども、其御名の限、合せし下十百
小注一奉り可、八溝嶺神社、白河故事考、黄金神
也、今所祭二座、山王大己貴命、日本事代主命也と有り
續後紀、美和三年正月辛丑朔乙丑詔奉、究陸奥國從
五位下勲十等八溝黄金神封戸二烟、以應國司之禱、令
採得砂金、其數倍常能助遺唐之資也、と見え、又石
都、古和氣神社も味高彦根神、日本武尊と相殿
とす、此御事も下十百、又宮城國伊豆佐賣

△又和名抄御名小都
津郡長江安達郡
山江郡大井等あり

神社風土記、伊豆佐賣神社所祭溝咋比咩也、天武天
皇二年奉、主田行神礼と有、事代主神の當后、坐り
又志波彦神社名神大、味高彦根神、御在、坐り
鹽釜神社同神、りと思ふ由、有れども、事長、右
等の事共を合せ、注、○出羽國田川郡由豆佐賣神社、
陸奥國の伊豆佐賣神と同神あり、其溝撒姫命、御
在、坐りと御事、上七十一丁、小注、如、其、事代
主神の御社、公式外、めて、同荒倉神社と申す、有り、此と
元羽黒と云を以て、其別社ある事、知、梅木利彦説
小、事代主神と祀祭り由、然も有べく、其山、昔の
海濱と賀茂浦と云も、甚能合へり、者あり、又和名抄

△式、伊豆波神社
と有、今羽黒、御在
坐り、即玉依姫命、
波、と祭り、

大明神伴氏の官社私考ハ若狹志云在賀茂村社記曰
事代主命靈龜元年降臨其後造祠入郡縣志傳云靈龜
二年降臨之時白猿供奉然指東方以其所指為靈地養
光元年建社于其處而祭之又里人云此神社昔ハ神田
也有て山城ノ賀茂ノ社司來りて神事供奉せり云々
又正五位小野賀茂明神又正五位矢波前賀茂明神在
田村社山崎賀茂明神山城國上賀茂より移し祭り
故有て今ハ上賀茂より神税を別りて當社と授く又
正五位上津知大刀自明神在賀茂村大刀社雨乞宮坐
西方猿蓑洲水中郡縣志猿蓑洲在賀茂村大戸與上野

木村之間山下又其山突出之處謂猿邊鼻洲底有小石
名冠石傳言賀茂大明神降臨之時白猿供奉而現于茲
又小石神冠之所化也旱魃之時抱舉此石而祈雨則
必有驗矣所見古今思ふ此も同ト賀茂村ハ御在り坐せハ由
有べしと就以此ハ責布祢神と見らる其ハ別ハ從
三位雨師明神と申す御在り坐せらる右の上津知大刀
自明神ハ若くハ溝撤姫命と鴨川合神と等
其式社の御事ハ上七十三丁ハ注る如く遠
敷郡多太神社ハ大己貴命坐一弥和神社ハ
伊和と訓て謂ゆる播磨國伊和大神と同一阿奈志
神社ハ八千代神坐一三方郡御方神社ハ天日方奇
日方命坐一和爾部神社ハ地神本紀ハ八世孫阿
賀多須命和爾君等祖と有る所ハ以有る事共あり

△當郡古語諸神有
小三代實錄小貞觀
十八年七月廿日丙申
加賀國正六位上山代
大肥神從五位下と百
り又外の

○神名式小越前國丹生郡兄子神社姓氏録大和國神別地祇
小和仁古大國主神六世孫阿太賀田須命之後也見
元たり小和名加賀茂郷有り又大野郡坂門一事神社
ハ一事主神ハ渡ルセ給ヘリ當郡川合加波郷有ハ
とも由有り又加賀國江沼郡氣多御子神社ハ右ハ詔
ハ飛彈國の氣多若宮神の例也事代主神ハ御在
ハ坐事上七丁ハ注ルガ如ク和名抄ハ三枝佐伊長
江奈加江加二郷有ハ其神ハ由有ハ地名共あり古川
郡額東神社ハ風土記ハ所祭猿田彦命也天武天皇四
年乙亥始奉主田獻神家巫戸等神齋等被行之と有り

△此羅も万葉記に
早天ノ麻野ノ事ハ故曰
麻野久と有ハ並ビテ
二上能多底母許空雲
と誦レハ二上ノ傳ハ
ハ若ク其ハ二上傳ハ
ハ六ノ注ハハ如ク神名
式ハ謂ハ射水郡射
水神社大和國是ハ大
貴少彦名神と祀
同ハ一ハ此三島野
具ハ屬ハ例ノ事代主
神ハ由有ハ地名と早
ハ者ハハハハ

又加賀郡賀茂神社も有り越中國郷名ハ礪波郡川合
加波射水郡三島美之婦負郡川合等有ハ神社ハ所見
無ハ越後國頸城郡大神社を今在三島大三輪村と云
ハハ上七百二ハ注ハ遠江國濱名郡弥和山神社ハ事
代主神ハ渡ルセ給ヘリ同ハ例あり可ハ瑞籬
朝以前ハ事代主神ハ大物主神と共ハ大三輪ハ御
在ハ坐ハハ別ハ賀茂神社ハ齋奉ルハハ趣あり
ハ此大神社ハ其分ルセ給ヘリハ以前大和ハ此ハ齋祀ハ
ハハ右ノ二柱共ハ御在ハ坐ハ事ハハ有ハ
上ハハ注ハと合セ讀ベク又同郡水島磯部神社三島郡

三島石部神社常々石部神社ハ大己貴神ハ坐例ス
ル也。此等ハ三島の言を冠テ申セバ事代主神也
共ハ齋ヲルルセ給ヘカクシク和名坎ハ三島美之郷
有テ郡名郷名社号共ハ三島ありハ縁の故田ハ
非シケリ又蒲原郡式外賀茂大明神今モ青海莊加茂
町ト云ハ隆元々セ給ヘリ又佐渡國賀茂郡阿都久志
比古神社略風土記ハ長江村ハ熟串彦神社有リト云
リ又和名坎ハ賀茂郷ト云モ所見ナリ其ハ上九十丁
ハ注カカク
此ハ天日方高日方命ハ御名ハ通ヒテ聞ヤクモ其村
と長江ト云ハ姓氏録大和國神別地祇ハ謂ヤク長柄
首天乃ハ重事代主神之後也ト有ハ合ヒテ床ト思
ハリ地名あり首あり又同坎ハ當郡佐鳥郷ト云モ見

元カ
リ ○ 神名式ハ丹波國栗田郡松尾神社大井神社ハ
上三丁ハ注カカク此松尾神社（頭注ハ大山咋神ト有リ此）浮田明神ト申
テ其社記ハ遠古世丹波國湖也大山咋神決其水涸而
後為家郷及田地於是尊崇此神德祠之以稱栗田浮田
明神以鋤為神体ト見元山城名勝志ハ以鋤為神体社
坐丹波國保津邑浮田明神或云此
説直從ト有テ大山咋神
此時ハ神鋤ヲ納メテ齋奉ルル御社トモ山城國葛野
郡松尾神社二座並名神大月
次相嘗新嘗の本是あり故神代系圖
傳ハ大山咋神決丹波國湖水涸而成土兵以鋤為神体
者山城國松尾大神也ト見元羅山文集ハ又有浮田神

祠世傳遠古之世丹波國皆湖也其水赤故曰丹波大山
咋神嘗浮田決其湖於是丹波水拓成土乃建祠而祭之
以鋤爲神之主此神即是松尾大神也と有て後あり其
神鋤を以て山城國松尾大神の神主と爲て齋奉り所
由己の傳百五十二丁小委百八十一丁注し奉らば如し
又其土人の傳小浮田明神の鋤を以て山を穿り磐を
劈給へり其片方ハ嵐山松尾の片端ハ龜尾山是ハ
り其通し給へり一水ハ即大堰川あり浮田明神の御
在し坐す保津ハ其水の落口也丹波の此を保
津川と云て龜山の接地あり云々と云り故此大井神

社ハ其保津の川上一里許ハ大井村並河村と云有る
二村の産土神也其並河の方ハ今も大井大明神と
稱奉りて其川下あり山城國ハ訓郡大井神社と始奉
りて諸國ハ在ゆる大井神社の本是あり此御社ハ
大井村並河村大井神と二柱並御在し坐す事已ハ傳十五卷
三百九丁ハ注し奉らば如し頭注ハ大井月讀命也建
治ハ亥四月神樂依大井川大水而流此地故國民祭之
と有ハ其始大井村ハ御在し坐し後ハ並河村の
今の地ハ鎮の奉らば後人ハ推量説ありハ云あり足
本書入あり在れども後人の推量説ありハ云あり足
りて○又同國氷上郡神野神社和名坎ハ賀茂郷有と
以思ふ鴨野の謂あり可し大同類聚方ハ川守藥
丹婆國神戸鴨等乃家仁所傳之方と有り神戸ハ山城

國賀茂神社の神戶あり此の鴨氏人の住へりあり
 けり中右記の元永二年十二月五日右中辨惟兼來云
 鴨社今度遷宮件御服装束事被問本社司之所申云以
 丹波御厨年一度所調供米也而自故稱宜惟季時被立
 加美之御厨之後二季調進之と有り其神戶あり事
 知るはたう又上九十注九如く河鹿郡阿須二伎
 神社ハ味相高彦根命佐陀神社ハ猿田彦神ハ坐ハ何
 々も同神ハ渡ハ給ハ又河牟奈備神社ハ隱岐國知
 夫郡賀茂奈備神社ハ思合ハ可ハ千載集ハ長元九年
 後朱雀院の御時大嘗會ハ主基神遊の歌丹波の神奈

備山を藤原義常忠磐ハあハ神奈備山の柳葉を刺ハぞ
 祈ハ哉万代の為壽永元年大嘗會主基方の歌丹波國
 神奈備山と詠ハ權中納言兼光三島木綿肩ハ取掛け
 神奈備の山の柳と挿頭ハ採ハあハ百ハ昔ハり名
 高ハ所ハあり又傳ハ廿九ハ百六十一ハ九十三ハ三ハ注ハが
 如ハ天田郡ハ夷三郎殿の舊地と云物有ハ其事代主
 神ハ由有ハ神跡と思ハととも考合ハ可ハあり右ハ
例
 茶田郡神野神社ハ同ト鴨野あり可ハ事ハをハ知ハべ
 山城風上記ハ謂ハ丹波國神野伊可古夜日ハの
 才貫ハ氷上郡の方あり可ハ事ハをハ知ハべ
 事傳ハ廿六卷百九十八ハ丁ハあり
 ○神名式ハ丹後國與
 謝郡阿知江岨部神社和名坂ハ謁ハ齋ハ郷ハ有ハ味相高彦

根神の御名の略あり可き事上九十三丁小云丹波國又丹波國
 多久神社ハ出雲風土記ハ楯縫郡神名樋山略古老傳
 云阿遲須担高日子命之后天御姥日女命來坐多久村
 産給多伎都比古命略下有神名式ハ多久神社見充
 たり是即其本后より渡りて給へり天津羽三神の御
 事あり由上五百七十四丁小注カガ如ク此を以て其阿知江
 の地名の由緒とも思合可き事あり
但丹後舊事記と云
物ハ多久神社丹波郷豊宇賀能賣命号天遲大明神又
云天酒大明神と云ハ古老の傳ありしハ不審
事共あり
 ○神名式ハ但馬國出石郡桐野神社を續風土記
 桐野鴨社と云ハ賀茂神戶記ハ寛治四年七月十三

日賀茂御祖社被奉不輸田七百五十町為御供田云々
 但馬國土野莊田地四十町云々嘉元三年河合社迂宮
 記云々三和土野津野等莊役也云々と有り云々又
 云々式外貴布祢社在桐野村南鴨社神幸の所あり
行
 有ハ山城國賀茂神社の攝神ハ貴布祢神社御在
 坐列あり又但馬風土記ハ出石郡出石郷谷山川
 上有神号水上社所祭事代主命と有ハ此文を引て上
七百十ハ下小注カガ如ク事代主神の后溝織姫命の御祖
 を大水上神と申して右右貴布祢神ハ坐其御子高
 水上命ハ其溝織姫命と鴨河合神是あり然り時

ハ水工社と云て事代主神と祀り事甚其謂レ有リ御
事あるゆゑに續風土記に云くハ水上神社ハ
又式ノ石部神社在谷山東北と云レ其
水上神社ノ近きハ在也故有レ其
幡國法美郡手見神社と因幡志ノ登儀郷松尾村ノ山
麓ハ在リ松尾大明神と称リ是あり當社往古ハ山
上ハ在リ其地以嶮僻邑人行拜り多ク便無ク近世相
議して社を山下ノ移リ鄰村と吉野と云ふ吉野松尾
田一邑ゆゑ古名と手見村と云ひ神社ノ旧地を古
手見山と云ふ也有り松尾大明神ノ社号をも古より
唱來りけむハ例ノ大山咋神ハ坐事申すも更ハ

リ又和名枚高草郡味野乃知郷有レ味高彦根神ハ
由有リ○伯耆國式外賀茂神有リ三代實録ハ貞觀九
年四月八日丁丑伯耆國正六位上賀茂神授從五位下
と有り是あり和名枚郷名ハ久米郡大鴨ハ鴨會見郡
鴨部あり有り上ハ百十見ハ可一○出雲國ハ事代主神
ノ御本國あり故ハ殊ハ御事跡も此上無ク多ト
雖も阿邊須枳高日子命と申す御名ハ傳ハレ
凡レノ御事共下ト下ト注レ奉リ可きあり○神名
式ハ石見國津門神社と社傳ハ天鋌命と云ハ上ト百
九ト注リガ如ク味高彦根神ハ御在ト坐ありありト

△神名ノ訓
郡大井神社ノ上件
ハ云ハレ例ノ如ク
△延暦寺水上新社
ハ云ハレ例ノ如ク
△出石郡水上新社
ハ云ハレ例ノ如ク
△神名ノ訓ハ
ハ云ハレ例ノ如ク

○神名式小隱岐國周吉郡賀茂那備神社水祖神社
 和名坎小賀茂郷有り郡名の周吉の味部高彦根神の
 御名小起りたる可し其社を在鴨村之東号鴨明神と
 見えたる水祖神社も其地小御在し坐みへ上六百
六十注し奉り山城國愛宕郡賀茂別雷神社賀茂御
 祖神社と二所小相並はせ御在し坐小同し例と見え
 させ給へり猶此二所並び御在し坐り河内國高安
郡鴨神社御祖神社の例も更し云す山
城國葛野郡松尾神社二座大和國葛城上郡鴨都波八
重事代主命神社二座の如きも其御祖神と共鎮り
御在し坐り諸國の○山湯道播磨國小味部高彦
甚多御事あり根神と申す御名の方めて御事跡共風土記小所見た

事代主神御在
 坐り東郡高
 神社小傳小卯名子
 社と云有も彼大和國
 の多同し可
 夫大真穴網言陸家
 神の坐り守名子社
 朝行け小幣と手向
 て十鳥鴨と云有
 是ふり云り又

野

故別小下百注し奉り可きあり又和名坎小
 賀茂郡上鴨郷見え風土記小下鴨里と云も所見たれ
 ども此國あり他の例りも異り事上百九十注
大庭郡長田神社右二百十り○美作國式外御鴨神と申す御在し坐けり三代實
小注攝津國八郡郡小坐り同し録小貞觀十七年三月廿九日壬子授美作國從五位下
 御鴨神從五位上と有和名坎小真島郡美甘郷有り是
 あり可し今も三鴨と云地有り又英多郡川會郷勝田
 郡賀茂郡若東郡賀茂郷久米郡大井郷真島郡大井郷
 あり何れも由有り地名共小あり有けり又上二百
四丁注るが如く神名式小備前國邑久郡片山日子神社を

社傳小大山咋神亦名片山日子命と有り名字ハ衍小
て此二柱並御在坐ベク事近江國淺井郡片山
神社二座と有思合す可一山城國愛宕郡賀茂別雷神社ハ
大山咋神坐一片山御子神社ハ彼丹塗矢の御子小
て別ニ有る事傳三行廿六二百上六百八注々を見ベ
あり又安仁神社名神ハ和仁神社と同ト有る可く赤
坂郡鴨神社三座神名帳小正四位下鴨高園明神正四
位下鴨上松原明神正四位下鴨新田明神と有り是
小當り頭注小鴨山城同と所見たり又正四位下
鴨布施明神從四位上石洲鴨部明神從四位下鴨長尾

明神正五位上鴨常普明神正五位下賀茂社前明神正
五位下鴨布施明神と見元又正五位下松尾明神と
申すも有り和名坎小葛木郷有ハ其鴨神社小就て所
以有りあり又上道郡正五位下天鴨明神有り又神
名式小津高郡鴨神社帳小從四位下鴨明神と見ゆ今
も加茂村と云小立せ御在坐ハ和名坎小謂ゆ賀
茂郷の地有る可き事云々更あり又從四位下多自括
鴨明神と申すも有り又式小兒島郡鴨神社今在長尾
村称ハ隈幡と注ハ帳小正五位上ハ幡明神と有り
是ハ此村名又右の赤坂郡從四位下鴨長尾明神の御事思合

可一其外山和氣郡正三位長田大明神ハ右美
作國。式あり。同ト事代主神小御在坐ベク又
磐梨郡正三位松尾大明神從四位下賀茂明神あり見
元ナリ其委ト事ハ己ル上二百六丁小注一奉れり今
云限ル非ズあり又神名式小備中國窪屋郡足高神社
ハ味耜高彥根神の御名の略。和名杵阿智郷百リ又
賀屋郡大井於保後月郡足次等毎須の二郷見ル元ナ
り小足次山神社式小載れり又式小備後國葦田郡賀
武奈備神社見ル其事代主神小御在坐ベク武
郡河牟奈備神社又百二十一丁小注隱岐國周吉郡
賀茂奈備神社あり。同ト御神渡給ル可

事申す。○和名杵の安藝國賀茂郡賀茂郷山縣郡
も更あり。賀茂郷有リ神社も必御在坐り。も未考得ず又
上二百十丁小注り。如く周防國佐婆郡出雲神社二座風
土記小在下徳地村奈神大己貴命事代主命社号二宮
至田五十束と見え元吉敷郡仁壁神社と社傳小在山口
俗稱三宮表底筒男中筒男底筒男命味耜高彥根命下照
姬命ありと云り又和名杵小長門國大津郡三島郷と
云も所見ナリ。○紀伊國式外小海部郡賀茂神社。傳
小欽明天皇の御宇山城國賀茂上下二社。神靈と遷
一奉れり因て此地の惣名を加茂谷と号け郷中二神

を以て産土神とす當社其一の^一下賀茂神を祀り
引尾。岩井山の上賀茂神と祀りて祭日ハ兩社の
神輿中村ハ神幸して祭式も嚴重ありと後世其式
廢して兩社縁無き^一如く成り^一と云り又紀伊國の
事と書^一或書ハ伊都郡三谷莊三谷村ハ酒殿明神社
祀神丹生津比賣大神云^一當社ハ天野攝社の隨一ハ
して神事皆惣神主の司り所あり若^一寛明神ハ酒と
釀して天野社ハ献^一例あり故^一酒殿明神ハ稱奉
り^一と云^一と有^一又寛明神社同村ハ寛新五郎と云
ふ家有り其家寛明神の末裔^一居地ハ此社有り

其寛明神と^{稱奉}神代^一此地ハ地主神^一丹生
明神影向の時供御と調進^一家と云ふ^一と云^一其寛
明神と申^一ハ後世記^一者^一賀茂明神と申す
御事あり可^一寛氏ハ賀茂氏あり可^一寛神の子孫
と云^一何れ^一古書^一所見^一事^一あり^一古^一
三^一注^一如^一大和國の飛鳥坐神社の酒殿の御事
合^一七^一灼然^一御事^一又其^一隣^一神野
郷と云^一十七村有り其地ハ伊豫國大三島明神と祀
り^一と云^一由^一右^一神野郷と云^一伊豫國ハ古
上五百三^一注^一如^一類史^一大同四年九月己
改^一伊豫國神野郡^一爲^一新居郡^一以^一上^一諱^一也^一有^一と見^一

其く以前小己く大三島神と移奉り、事灼然一然
て此神野郷。野中村の十三明神社と申す有て祀
神熊野十二所權現伊豫國大三島明神相殿とす元ハ
二神別社ありて祀りて天正二年河野氏此小合せ祀
りてり右ハ名勝圖會の
説ありと今正一云りあり ○神名式小淡路國津名郡
賀茂神社和名坂小賀茂 毛加郷見元り今加茂村小御
在し坐り又山城國賀茂山神社古文書小淡路國生穂
莊佐野莊と云有し今も其地小四社明神と申し甚
可畏と神御在し坐りて其祀り所白鬚貴布祢賀茂春
日等の四大神あり土人火を忌む事甚嚴重あり、更
あり獸肉を喰ふと屋を瓦葺小作り事と甚く忌嫌ハ
せ給し白地 も此と犯す時ハ現討有て普く人の

知る所あり其生穂ハ志筑郷の内みく浦と生穂と云
ひ里と中之内と云る其中之内村小立せ御在し坐り
り因云佐野も右の生穂小相隣り 和泉國郡
佐野小向ひて同名あり神皇 美紹運章第一、一書小所稱
狭野者年々時之號也後撥平天下奄有八洲故復加號
曰神日本般余彦尊と有る御々年の御名ありけりハ
其東征の御時あり所由有て此地名とも成りけり
と其縁小由て後ハ賀茂神社の神戸とハ成りあり
可し然れハ上 六百七十一丁小注り カ如く賀茂御祖神社小
此天皇と合せ奉りて虚けたり御事あり非りけり

然れバ百練坎小寛治四年七月廿三日賀茂上下社被
 奉不輸田六百余町爲御供田近日稱有夢想供御膳依
 神稅不足也又分置御厨於諸國之有ハ如ク次ハ神
 封ハ諸國ハ多ク奉セ給ヘルハ神代ノ田緒
 無ハ多クハ非リ
 一者ト所見ナリ
 ○神名式ハ阿波國阿波郡事代主神
 社此御事上 二百十五丁 小注一奉ルガ如ク攝津國八
 部郡長田神社の本是あり美馬郡鴨神社當國神名帳
 小阿波郡中野村賀茂別雷皇大神宮同郡加茂村加茂
 神社同郡鴨宮村加茂大明神ふ見元ナリ又田寸神
 社と同帳小加茂村と有リ此ハ賀茂御祖神社と同帳
 小可ク由上 二百十五丁 小注ハ如ク又勝浦郡事代主
 神社上 五百三十五丁 小注ハ如ク姓氏録 和泉國神 小長公
 別地祇

其勝浦郡勝日
 神社事代主神
 小津天津羽三神
 小渡セ給ヘルハ
 小上二百十五丁

此社の神階等ハ
 上三丁ハ已小注ナリ
 又神谷神社御事
 也然リ
 小上佐國長國郡
 彌田神社高下
 大明神ハ申サレ

大奈牟智神兒積羽八重事代主命之後也と有リ其同
 族長直の祖神あり續紀小光仁天皇寶龜四年五月辛
 巳阿波國勝浦郡領長費人立言庚午之年長直籍皆著
 費之字因茲前郡領長直叔父叔許改注長直略下有
 是あり 又同郡御縣神社ハ天日方奇日方命小坐一建
 又神名帳板野郡下莊村 其御祖神小渡セ給ヘルハ可ク
 琴代社ト申サレ見ユ ○神名式小讚岐國阿野郡鴨
 神社今鴨村小御在ハ坐セ和名坎小鴨部 加郷有リ又
 芥田郡加麻良神社今植田村と云ハ御在ハ坐セ俗小
 加茂良と云加茂宮と云申サレ云セ由有リヤ 三代實
 録小貞觀六年十月十五日 加讚岐國正六位上加

富良神授從五位下と見ゆ三野郡大水上神社六百
九十の注九如く事代主神の后溝楸姫命と高水上
 命と申す其御祖坐せば由有り式社考小神田の支
 邑羽方村と云地小一宮二宮三宮とあられ有り其
 二宮ありと云傳ふと有り神田ハ鴨田ト同トク可
 けぬ其謂有らべし三代實録ハ貞觀七年十月九
 日 讀岐國 大水上神授正五位下同十七
 年五月廿七日戊申授讀岐國正五位下大水上天神正
 五位上從五位下賀茂天神神谷天神並從五位下と有
ル此三神共ハ殊ハ親シ並ハ給ヘルハ必ズ由縁有

ハ御事と所見ハ又ハ此ハ就テ思フルハ那河郡神野神
社と式社考ハ満濃池ノ堤ハ在リ
或郡家村の氏神ありと云ルと有り神野ハ亦ハ
鴨野ハ三代實録ハ元慶五年十一月十四日
授讀岐國正六位上万農池神從五位下ハ百ハ此神野
神社ハありと或人ハ云フ然レ有リ河内國石川郡
和尔池有テ其神ヲ和尔神ト申スハ
事代主神ハ坐ス例ト思フ可クハ
伊豫國越智郡大山積神社名神ノ御事ハ傳ハ十一三
四上六百ノ注一奉ハ如ク其本社ハ攝津國島下郡
三島鴨神社ハ支レたり故ハ豫章記ハ伊與見島ハ
加茂領也と云ハ又正一位大山積大明神ハ十六王子内
第一王子伊豆三島御事云と有テ其下ハ此島本ハ
賀茂御領あり今ハ十六王子御社上一段有リ社ハ葛

城に申す云々と有めて此第一社ハ葛城賀茂神社の
 御事神即事代主神ハ御在り坐て伊豆三島神社の
 主神めて渡りて給ふ由あり此事代主神と大山積神
 の王子と申すハ上六百三丁下注リガ如く其後溝
 織姫命の御父ハ大山祇神御母ハ閻靈神ハ渡りて給
 ふと以の御事あり又和名汝郷名ハ富郡朝倉安佐
 高市多介鴨部等有り其朝倉ハ次ハ云々土佐國朝倉
 神社ハ由有て即事代主神の本后阿波咩命ハ由有て
 攝津國三島鴨神社有て溝咋神社ハ富后あり天石門
 別神社ハ本后阿波咩命の御父あり伊豆三島神社坐

小富后伊古奈比賣神社名神本后阿波神社御在り
 坐りて共ハ三國共ハ同ト例ありとあり思ふ可事
 ありけり其新居郡の本ハ神野郡ありハ由有ハ上
 賀茂伊豫朝臣の事ハ就て注リ乙ハ上五百三丁
 又濃満郡大井郷と云も見元たり○神名式ハ土佐國
 土佐郡都佐坐神社名神と風土記ハ土佐郡ニ家西去
 四里有土佐高賀茂大社其神名爲一言主尊其祖未詳
 一説云大穴六道尊子味耜高彥根尊と有リ此御
 事ハ下百上注奉り可事ハ此を本として同郡
 朝倉神社風土記ハ土佐郡有朝倉郷ニ中有社神名天
 津羽ニ神天石帆別命今天石門別神子也と有ハ其本后あり

日本書紀卷三十一

渡りて給へり申上五百七 小注一奉りて如く又上百
二十三丁 小注二如く香美 上佐郡大川上美良布神社地神本
 紀小八世孫健飯賀田須命此命以鴨部美良姫爲妻生
 一男と見え元長岡郡殖田神社を或書ふ今在植田村里
 入号高加茂大明神と有を合せん右の讃岐國加麻良
 神社植田村に在て加茂宮と申す小同ト又式外殖
 田上神社と申すも有り又土佐郡郡頭神社を今鴨部
 神社在鴨部村と云い幡多郡伊豆多神社高知坐神社賀茂神社等
 何れも事代主神然て其御由縁の神等めて渡りて
 給へり御事申すも更ありて明委可其又所和就名以

安藝郡和食長岡郡片山土佐郡鴨部又朝倉あきと云ふ
 郷名有ハ皆所以有り又吾川郡次田ハ味鋺田ハ略
 あり ○西海道の諸國ハ事代主神の御社多く見
 元侍上三百二神名式十丁筑前國下座郡美奈宜神社ニ説小
 中大己貴命左素戔嗚尊古事代主命と有て此めてハ
 從祀めて渡りて給へりども上座郡朝倉麻氏良布神
 社ハ齋明天皇五年御紀ハ謂ゆる朝倉社めて右の土
 佐國土佐郡朝倉神社と同神あり其本后を祀りて
 御社あり事申すも更あり然して和名次ハ三島郷有
此郷中に見えたり
 朝倉記聞と云ふ物ハ式外三島神社在三島村と云
 々本一の事代主神小渡りて給へりハ驚く迄契合

へり者あり又上二百二十六丁小注カ如く同郡國

御笠郡大野郷三笠社と云有り万葉四二十小不念子

思常云者大野有三笠社之神思知三と有大和國

奈提社の神ハ事代主神ハ渡ル給ヘ依テ其十

二二十小不想乎想常云者真鳥住卯名乎乃社之神思

將御知と有と同一意味あり其同神ハ御在ハ坐

を以テ名メり和名カ夜須郡雲提郷有ル其接地あり

小心を著べし者あり大野ハ御笠郡の御名カ

佐國吾川郡次田郷有と所以等ハ又次田郷有ハ右ノ土

郡ハ整齊久波倍ト有ト縁有右ノ大野郷ハ就テ思

大野神社と申す有リ若其カ田有ル三笠社ハ

一事主神あり○筑後國神名帳ハ御井郡長柄神三猪

郡正六位上神野神借從五位下三島神山門郡正六位

上鴨下神あり皆事代主神とあり思ハりハりハり

長柄神ハ姓氏録大和國神長柄首天乃八重事代主

神之後也と有リ阿志支神ハ出雲國出雲郡阿受伎神

社ハ味耜神ハ義ありハ同ハ神野神ハ鴨野神あり

可く三島神ハ本ハり事代主神ハ御在ハ坐ハ鴨下神

と申すも其同神ハ渡ル給ヘ御事ハ今更カ申

と云事ハ曰ハりハ鴨下ノ下ハ上カ對ヘりハ社

事ハ石七百十七丁云リ伊勢國度會郡鴨神社ハ式外

鴨下神社と有と以考ふ可ク又和名カ御原郡長柄

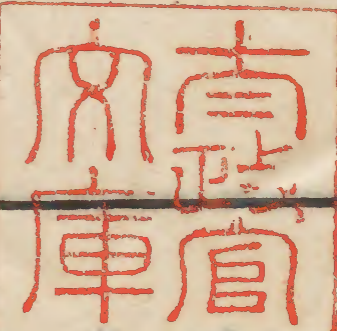
鳥居の日本書紀傳三

○三百年三

竹野郡長柄と云ふ郷名有ハ共ハ長柄と説レリ又竹
野郡右ハ謂レリ長柄神の御事と以テ知ベシ又竹
野郡ハ川ハ肥前國式外甘南備神葛木一言主神と申
會郷有リ
在リリリリリ三代實録ハ貞觀十二年正月十一日

授肥前國正六位上甘南備神從五位下と有り同
十五年九月十六日戊寅授肥前國正六位上葛木一言
主神從五位下と有ハ和名坎ハ三根郡葛木如都郷有
リ又佐嘉郡深溝布加郷見元たるハ大和國葛下郡深
溝神社坐方此ハ闇靈神とて渡ルセ給ハハ事代主神
ハ甚ハ御因ハ有リ地名共あり又上二百三小注リ
ハ如ク肥後國玉名郡足野神社ハ味耜高彥根神と思

山鹿郡神西郷有ハ鴨西と云ハ同ト
菊池郡水島郷ハ景行天皇十八年御記ハ謂レリ水島
ハ葦北郡の海中ハ在リ島名あり其トハ別ク其
海遠キ菊池ハ在ハ美志麻と訓ベク一ハ例の三島ハ
可ク又上甘郷と云ハ有ハ上鴨あり可クハ事云
ハ更あり又大同類聚方十九ハ伽羅靈女藥姬島直鴨
戸等之家之方と有ハ此鴨戸等ハ姬鳥直と並びたり
葦北郡の豪族ハ可クハて姓氏録ハ謂レリ鴨部祝
賀茂朝臣同祖大國主神之後也と有ハ思合テ可ク者
あり事上二百三小注セリ如ク
右の如ク筑前
筑後肥前肥後



等ハハ石の如く事代主神ハ係ル御事迹也且見
 元々ノと雖も豊前豊後日向大隅薩摩の國ハハ更
 小考アリ所無と其日向以下三國の事ハ猿田彦神
 申す御名の方ハ在ル故ハ其ハ傳三十卷百
 十申す可ハ注 ○神名式ハ壹岐國對馬島上縣郡島大國
 魂御子神社胡祿御子神社と所見タル此ニ社ハ所祭
 事代主神也御在ハ坐す位あり證共有テ其事委
 小ハ上二百四ハ注ハ奉ルリと ○右ハ事代主大神を
 齋奉ル武社の大較あるが其外武社ありぬと古書中より見出
 タル限と連ね擧げて注ハ奉ルガ猶各國ハ在ル地
 名と姓氏との此神ハ係ルとハ載テ必其神迹と思
 事と注ハ其ハ就テ故有リ地毎ハ神社も御在ハ坐ズハ思ハ

